

富山県福光町

**県営ほ場整備事業(担い手育成型)に係る
埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書
—北山田北部地区—**

2003年3月

福光町教育委員会

序

福光町の北東部にある北山田北部地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。

近年の様々な開発事業に伴い調査が行われ、縄文時代から中世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）の実施に伴う北山田北部地区の試掘調査です。当地区におけるほ場整備事業関連の遺跡試掘調査は平成10年度から始まり、遺跡の遺存状況を確認するために事業対象区内のすべての遺跡について試掘調査を実施してきました。本書は、その調査結果をまとめたものであり、郷土の歴史解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、富山県埋蔵文化財センター・福光町シルバー人材センター・富山県農林水産部・ほ場整備事業北山田北部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに対し、深く感謝するものであります。

平成15年3月

福光町教育委員会

教育長 石崎栄一

例　　言

1. 本書は、富山県西砺波郡福光町北山山北部地区における埋蔵文化財包蔵地の試掘調査報告である。
2. 調査は、県営は場整備事業（担い手育成型）に先立ち、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。
3. 調査事務局は、福光町教育委員会生涯学習課に置いた。平成10年度は文化係長 森山智之、文化係主任 佐々木隆が調査事務を担当し、課長 西村勝三が総括した。平成11年度は文化係長 森田智之、文化係主任 佐々木隆が調査事務を担当し、課長 中島英二が総括した。平成12年度は指導文化係長 森田智之、指導文化係主任 佐藤聖子、深田亜紀が調査事務を担当し、課長 中島英二が総括した。平成13年度は指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主任 佐藤聖子、深田亜紀が調査事務を担当し、課長 中島英二が総括した。平成14年度は指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主任 佐藤聖子、片山亜紀が調査事務を担当し、課長 加藤信行が総括した。
4. 試掘調査は、平成10年度から平成14年度までの5年間で、平成10年度から平成13年度までの試掘調査については富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受けた。また分布調査は、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣を受け、富山大学考古学研究室の協力を得た。調査の期間・面積・担当者の詳細は本文を参照されたい。
5. 本書の編集・執筆及び資料の整理は、福光町教育委員会生涯学習課指導文化係主任 佐藤聖子、片山亜紀、同係嘱託 西村倫子が行った。
6. 調査期間中、下記の方々から協力・助言を得た。記して謝意を表する。
太嶋勇・常本健治・南保久夫・林敏三・堀田博・増宮正泰・水口吉則・宮田進一・山山政寛（敬称略・五十音順）
7. 発掘作業員の確保については、福光町シルバーパートナーシップセンターの協力を得た。また調査にあたっては、地権者並びに地元の方々に多大な協力を得た。記して謝意を表する。
8. 本書で使用した方位は真北である。土層の確認には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準上色帖」日本色研株式会社を用いた。
9. 発掘調査・遺物整理・報告書作成業務の参加者は次の通りである。
木戸一代・竹治由佳里・西川和美・安田富子（整理作業員）

目 次

I 位置と環境	1	第21図 神成遺跡の遺物(2).....	31
第1図 位置と周辺の遺跡.....	1	第22図 神成遺跡の遺物(3)	32
II 調査に至る経緯.....	2	第23図 梅原胡摩堂遺跡・宗守遺跡の遺物…	33
第1表 分布調査一覧.....	2		
III 試掘調査の経過.....	3		
第2表 試掘調査一覧.....	3	図版 1 在房遺跡	
第2図 試掘調査対象範囲.....	4	図版 2 久戸遺跡	
IV 試掘結果		図版 3 久戸 II 遺跡	
1. 在房遺跡.....	5	図版 4 久戸 II 遺跡	
第3図 在房遺跡の基本層序図.....	5	図版 5 神成遺跡	
2. 久戸遺跡.....	6	図版 6 神成遺跡	
3. 久戸 II 遺跡.....	6	図版 7 梅原胡摩堂遺跡(1)	
第4図 久戸 II 遺跡の基本層序図.....	7	図版 8 梅原胡摩堂遺跡(2)・宗守遺跡	
4. 神成遺跡.....	8	図版 9 在房遺跡の遺物(1)	
第5図 神成遺跡の基本層序図.....	8	図版 10 在房遺跡の遺物(2)	
5. 梅原胡摩堂遺跡.....	9	図版 11 在房遺跡の遺物(3)	
第6図 梅原胡摩堂遺跡の基本層序図.....	9	図版 12 在房遺跡の遺物(4)	
6. 宗守遺跡.....	10	図版 13 久戸遺跡・久戸 II 遺跡の遺物(1)	
第7図 宗守遺跡の基本層序図.....	10	図版 14 久戸 II 遺跡の遺物(2)	
V まとめ.....	11	図版 15 久戸 II 遺跡の遺物(3)	
第3表 遺跡総括.....	12	図版 16 神成遺跡の遺物(1)	
参考文献.....	12	図版 17 神成遺跡の遺物(2)	
第8図 試掘調査による遺跡範囲図.....	13	図版 18 神成遺跡の遺物(3)	
第9図 在房遺跡概要図.....	15	図版 19 神成遺跡の遺物(4)	
第10図 久戸遺跡・久戸 II 遺跡概要図.....	17	図版 20 神成遺跡の遺物(5)	
第11図 神成遺跡概要図.....	19	図版 21 梅原胡摩堂遺跡の遺物(1)	
第12図 梅原胡摩堂遺跡・宗守遺跡概要図.....	21	図版 22 梅原胡摩堂遺跡の遺物(2)・宗守遺跡の	
第13図 在房遺跡の遺物(1).....	23	遺物	
第14図 在房遺跡の遺物(2).....	24		
第15図 在房遺跡の遺物(3).....	25		
第16図 在房遺跡の遺物(4).....	26		
第17図 久戸遺跡・久戸 II 遺跡の遺物(1).....	27		
第18図 久戸 II 遺跡の遺物(2).....	28		
第19図 久戸 II 遺跡の遺物(3).....	29		
第20図 神成遺跡の遺物(1).....	30		

I 位置と環境

富山県福光町は、石川県金沢市との県境にあって富山県の西南部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたと言われる靈峰医王山をはじめとする山脈が連なる。町の南側に位置する上平村との境にある大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縱横に走り、それらを利用した田地が広がる。

北山田北部地区は、山田川と大井川に挟まれた緩やかな傾斜を持つ洪積台地上に位置し、行政区画上では福野町との境界に接する。現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

一帯には、在房遺跡、久戸遺跡、久戸II遺跡、神成遺跡、宗守遺跡、梅原胡摩堂遺跡などの遺跡が密集しており、近年の調査で、古墳時代・奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。ことに梅原胡摩堂遺跡が所在する梅原・宗守一帯は古くから交通の要衝であったと考えられ、古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。



第1図 位置と周辺の遺跡 (S = 1:25,000)

II 調査に至る経緯と分布調査の概要

(1) 調査に至る経緯

平成8年（1996年）、福光町北山田北部地区において県営ほ場整備事業（扱い予育成型）の計画が策定された。この事業は、農地を扱い手に集積し経営規模を拡大させることで低コスト化農業を目指し、山の大区画による基盤整備を行うものである。事業区である福光町北山田北部地区は、在房、久戸、神成、宗守の4地区からなり、事業区域面積は約100haである。事業計画では、平成10年度から平成14年度までを工期としていた。しかし、事業区内には久戸遺跡などの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在し、また事業区西側で接する梅原地区においては、富山県内における中世期の代表的な集落跡である梅原胡摩堂遺跡他多数の遺跡が、東海北陸自動車道建設、県営ほ場整備事業の施工により発見されていることから、当事業区内にも遺跡が広がっている可能性が考えられた。そこで、町教育委員会では事業区内での埋蔵文化財包蔵地の有無、遺存範囲、遺存状況を把握し、その保存措置を講ずるため、詳細分布調査を平成9年3月に実施した。

(2) 分布調査の概要

詳細分布調査は、町教育委員会が県埋蔵文化財センターから職員の派遣を受け、また富山大学人文学部考古学研究室の協力を得て行った。調査は、まず最初に調査員が事業区内の全ての田畠を踏破し、現況の田畠の表面にあらわれている遺物片断を探取し、その位置を図面に記録した。この図面から、遺物の散布状況のまとまりを把握し、周辺地形、古地図、伝承等も考慮し、遺跡の有無、遺跡範囲を確定していった。

事業区内におけるそれまでの周知の埋蔵文化財包蔵地には、久戸遺跡、久戸東遺跡、宗守遺跡があった。この詳細分布調査の実施により、新たに4つの遺跡を確認し、その範囲は事業区内の9割にあたる90haに及んだ。遺物の散布は、事業区東側に流れる山田川の氾濫原にあたる低地では確認できなかつたが、河岸段丘上では、ほぼ全域で確認した。

新たに発見された遺跡には、在房遺跡、久戸Ⅱ遺跡、神成遺跡、梅原胡摩堂遺跡がある。在房遺跡は、事業区内北側在房地区に位置する。町境である福野町山田尻地区と北側で接しており、東海北陸自動車道建設の際に発見された山尻遺跡が存在する。また、自動車道建設、梅原地区県営ほ場整備事業によって発見された梅原加賀賀遺跡が西側に存在する。久戸Ⅱ遺跡は久戸地区内に位置し、周知の久戸遺跡と西側で接する。神成遺跡は、神成地区、宗守地区内に位置する。周知の久戸東遺跡の西側にあたる。梅原胡摩堂遺

第1表 分布調査一覧

期間 (実働日数)	調査担当者	対象面積 (ha)	遺跡推定地 名 称	遺跡推定 面積 (m ²)	探 集 遺 物	遺跡番号
H8.3.17～18 (2日間)	福光町教育委員会 土 壴 部 佐藤聟子 富山県埋蔵文化財 センター 文化財保護主事 高梨清志	100	在 房	329,000	縄文土器、須恵器、土師器（古代）、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、瓦器、近世以降の陶磁器	421170
			久 戸	58,000	土師器、越中瀬戸	421176
			久戸Ⅱ	169,000	縄文土器、須恵器、土師器（古代）、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、瓦器、近世以降の陶磁器	421276
			久戸東	6,600	珠洲、近世以降の陶磁器	421186
			神 成	338,000	縄文土器、須恵器、土師器（古代）、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、瓦器、近世以降の陶磁器	421275
			梅原胡摩堂	42,000	縄文土器、須恵器、土師器、珠洲、青磁、瀬戸美濃、越中瀬戸、瓦器	421180
			宗 守	17,000	探集せず	421185
			遺跡推定面積合計	959,600		

跡は、宗守地区内に位置する。東海北陸自動車道建設、梅原地区のほ場整備により、広範囲で遺跡が広がっている事実は周知のこところであったが、採取した遺物の時期などから、事業区西側から県道福野城端線までの範囲を当遺跡内とした。分布調査の詳細については第1表、分布調査により試掘調査対象となった範囲は、第2図のとおりである。

(佐藤聖子)

III 試掘調査の経過

(1) 試掘調査の経過

分布調査の結果、広範囲に渡って遺跡の散布地を確認したため、遺跡範囲と遺存状況を把握し、保護措置を講ずる必要がでてきた。そこで県農地林務部、地元土地改良区と協議し、工事の優先箇所から試掘調査を実施した。試掘調査の期間は平成10年度から平成14年度までの5ヵ年であり、各年度の調査遺跡および調査対象面積は第2表のとおりである。

(2) 調査の方法

調査は、重機（バックホウ）で地表面から地山面まで、幅約1.2mの試掘トレーニングを田1枚に1~2本設定して掘削した。トレーニング断面と地山面は人力で精査し、調査員が分層・遺構検出と記録写真の撮影を行った。トレーニング断面の土層図と遺構平面図は調査補助員が1:100で手実測した。標高を基準とした水系張りとトレーニング平面位置測量は業者委託した。試掘トレーニングは記録作業が終わりしだい、重機で埋め戻した。また重機の進入が困難な箇所については、人力で田に4~5箇所づつ掘りをし、遺存状況を確認した。

(片田ア紀)

第2表 試掘調査一覧

	期間 (実働日数)	調査担当者	遺跡推定地名	対象面積 (m ²)	発掘面積 (m ²)	遺跡遺存 面積(m ²)	備考
平成10年度	H10.11.11~12.22 (23日間)	福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 土木課長 深田正紀	在房	60,600	1,828	33,900	
		小計		60,600	1,828	33,900	
平成11年度	H11.5.6~6.17 H11.8.30~11.25 (71日間)	福光町教育委員会 主事 漢田ア紀 富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 高梨清志	在房	243,300	13,350	168,300	
		久戸Ⅱ		92,700	5,295	65,500	
		小計		336,000	18,645	233,800	
平成12年度	H12.5.11~5.30 H12.9.25~11.28 (45日間)	富山県埋蔵文化財センター 文化財保護主事 越前慶祐 福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 嘱託職員 中井英策	神成 在房 久戸 久戸Ⅱ	93,000 80,000 56,700 37,500	2,704 3,534 2,393 1,524	89,400 66,100 35,100 30,800	
		小計		267,200	10,155	221,400	
平成13年度	H13.5.7~5.29 H13.8.31~11.28 (17日間)	福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 嘱託職員 中井英策	神成	37,300 420,000	4,077	109,700	
		小計		120,000	4,077	109,700	
平成14年度	H14.5.9~5.14 H14.10.31~12.18 (17日間)	福光町教育委員会 主事 佐藤聖子 嘱託職員 片田ア紀 西村倫子	神成 宗守 梅原胡摩堂 久戸Ⅱ	37,000 17,000 42,000 5,300	1,139 842 1,437 163	1,480 24,600 18,500 3,740	
		小計		101,300	3,581	48,320	
		総計		885,100	38,286	647,120	



第2図 試掘調査対象範囲 (S=1:7,500)

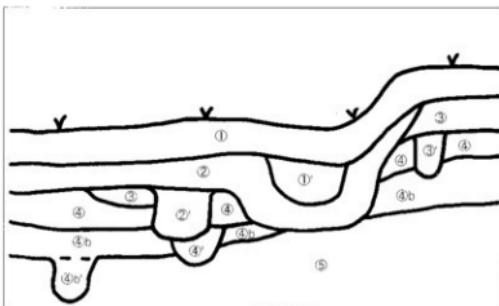
IV 試掘結果

各遺跡のトレーンチ設置状況、造構の検出状況については別図第9～12図を参照されたい。なお、遺跡範囲内であるが、削平を受けて遺存しない箇所は、薄いトーンで表示した。

1. 在房遺跡（第8・9図、図版1）

(1) 概況と層序（第3図）

在房遺跡は北山田北部地区の最北に位置している。行政区画で



第3図 在房遺跡の基本層序図

の福野町との町境に接しており、分布調査では在房地内のほぼ全域で遺物を採集している。遺跡の北側には田尻遺跡（福野町）、南側には久戸遺跡、久戸Ⅱ遺跡、西側には梅原安丸遺跡群が所在している。

在房遺跡では、山田川の段丘際にあたる遺跡の東側で、古墳時代・古代・中世の多くの遺構を検出している。縄文時代の遺構はほとんど検出しておらず、遺跡の西側で縄文土器が出上している。

基本層序は1層：（耕作土）、2層：褐色粘質土（整地層）、3層：黒褐色粘質土（中世・古代の遺物包含層）、4層：灰褐色粘質土（古代の遺物包含層）、4b層：黒色粘質土（古代以前の堆積層で遺跡の一部にのみ堆積）、5層：黄褐色粘質土/砂質土、青灰色粘質土（地山）となる。

(2) 造構

竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、ピット、祭祀遺構を検出した。

(3) 遺物（第13～16図、図版9～12）

石斧、縄文土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、瀬戸美濃、越前、青磁、白磁、瓷器系、伊万里、越中瀬戸、唐津、石臼などが出土している。

縄文時代の遺物

1は石斧、2～6は縄文土器・深鉢である。時期は縄文時代晩期と考えられる。

古墳時代の遺物

7～9は内面に黒色処理を施した土師器・杯である。内外面ともに丁寧にみがいでいる。遺跡の東側付近の、土坑からの出土である。10は内面に赤彩を施した土師器である。11はほぼ完形に復元できる土師器・甕である。7～9と同様の土坑出土である。内外面に刷毛目調整を施す。時期は7世紀初め頃と考えられる。

古代の遺物

12～17は土師器・甕である。17は内外面とも横方向の刷毛調整を施す。26～38は須恵器・杯である。31の底部外面には「×」の、32の底部外面には「/」のヘラ記号がある。39～48は須恵器・蓋である。41は内面が摩滅しており、転用視として使用されていたと考えられる。48は環状のつまみである。49～58は須恵器・高台付きの杯である。51の底部外面にはヘラ記号と「山」の字の墨書きがある。58の内面には墨跡がある。59・62は須恵器・甕の頸部である。60・61・63は須恵器・甕である。60の内面には同心円状の当て具痕が、外面にはたたき目が見られる。また内外面に自然釉がかかっている。64～66は須恵器・甕の底部である。65の底部には自然釉が厚くかかっている。

中世の遺物

18～21は土師器・皿である。底部に糸切り痕がある。60点以上の土師器皿・椀を埋納した祭祀土坑からの出土である。試掘調査では、掘削時に皿・椀を数点とりあげた。22は土師器・柱状高台の皿である。23～25は土師器・椀である。23は18～21と同様の祭祀土坑から出土している。67・68は珠洲・すり鉢である。67は口縁部に波状文を施す。69は越前・甕である。70は珠洲・甕の体部破片である。71は青磁である。

(片田亜紀)

2. 久戸遺跡（第8・10図、図版2）

① 概況と層序

久戸遺跡は北山田北部地区・久戸地内の西側に位置している。平成8年度の分布調査以前から確認されている遺跡であり、平成2年度には東海北陸自動車道の建設に伴って本調査が行われている。久戸遺跡の北側には在房遺跡、東側には久戸II遺跡、南側には梅原胡摩堂遺跡、西側には梅原落戸遺跡が隣接している。

久戸遺跡は、古代・中世の遺跡であるが、遺跡全体で遺構密度が薄く、遺物の出土量も少ない。基本層序は、1層：（耕作土）、2層：褐色粘質土（近世以降の堆積層）、3層：黒褐色粘質土（中世の遺物包含層）、4層：黒色粘質土（古代の遺物包含層）、5層：黄褐色粘質土/砂質土（地山）である。場所によっては、4層と5層の間に漸移層が厚く堆積している。

② 遺構

土坑、溝、柱穴を検出した。

③ 遺物（第17図、図版13）

縄文土器、須恵器、上師器、中世土師器、珠洲、瀬戸、青磁、白磁、越中瀬戸、土師質土器、肥前系陶磁器、瓦器が出土した。

古代の遺物

73は須恵器・高台付きの杯である。74は須恵器・壺の底部である。

中世の遺物

75は珠洲・すり鉢の口縁部である。76は瀬戸美濃・盤である。77は青磁・皿である。78は青磁・椀である。

近世の遺物

79は骨壺として使用された土師質土器である。壺はほぼ完形に復元でき、内部には骨片が入っていた。時期は近世と考えられる。

(片田亜紀)

3. 久戸II遺跡（第8・10図、図版3・4）

① 概況と層序（第4図）

久戸II遺跡は、北山田北部地区・久戸地内の東側に位置する。分布調査では久戸地内の東側で広範囲に渡って遺物を採集した。久戸II遺跡の北側には在房遺跡、南側には神成遺跡、南西側には梅原胡摩堂遺跡、西側には久戸遺跡が所在する。

久戸II遺跡では、弥生時代から近世までの遺物が出土しているが、ほとんどが古代の遺物である。検出した遺構も古代が大半である。

基本層序は、1層：（耕作土）、2層：褐色粘質土（近世以降の堆積層）、3層：黒色粘質土（中

世前半の遺物包含層)、4層: 黒褐色粘質土(古墳時代・古代後半の遺物包含層)、5層: 黄褐色粘質土/砂質土(地山)である。3層は部分的にしか堆積していない。

(2) 遺構

堅穴住居、柱穴、土坑、溝などを検出した。遺跡の北東側では、削平を受けており耕作上直下で地山を検出した。また遺構の深さが20cm以下と遺存状態は悪い。遺跡の西側では遺存状態が比較的良好、遺物包含層出土の遺物が多くみつかっている。

(3) 遺物 (第17～19図、図版13～15)

石斧、弥生土器、土師器、須恵器、墨書き土器、硯、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、美濃、越中瀬戸、八尾、木製品などが出土した。

縄文時代の遺物

80は、打製石斧である。

弥生時代の遺物

81・82は弥生上器・壺の口縁部である。83は、弥生土器・高杯である。脚部に粘土の積み上げ痕がはっきりと確認できる。

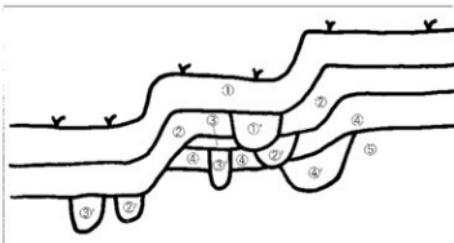
古代の遺物

84～92は須恵器・杯である。体部が外傾し、時期は9世紀代のものが多い。86は底部外面に墨書きがあるが文字は判別できない。91の内面には、油の跡が付着しており灯明皿として使用されていた。93～100は、須恵器・蓋である。95・99・100のように口径15cmを超えるやや大型のものも出土している。101～107・111は須恵器・高台付きの杯である。107の底部外面には墨書きがある。108は風字硯の破片である。胎土はやや荒い。使用面はかなり摩滅している。109は須恵器・双耳瓶の耳部分である。110は須恵器・長頸壺の口縁部である。112は須恵器・壺の底部である。113は内面に黒色処理を施した土師器・椀である。114～123は土師器・椀である。すべてロクロ製土師器であり底部に糸切り痕があるが、磨滅が激しい。115は体部外面に逆位で「中」の字の墨書きがある。126・127は内外面を赤彩した土師器・椀である。127の内面には暗文が施されている。128～135は土師器・壺である。129は口径約13.0cmの小型の壺であり、外面に横方向、内面に縦方向の刷毛調整が施されている。140は、土師器・耳皿である。底部の糸切り痕が見られる。

中世の遺物

138は非ロクロ整形の土師器・皿である。139は珠洲・すり鉢である。141は人形木製品である。中世の河道から出土したもので、祭祀に使用されたと考えられる。顔には耳と考えられる部分がある。また体部には手が彫り残されている。頭部には小さくぼみがある。同じ河道から箸、へらなどの木製品、珠洲、瓷器系陶磁器が多く出土している。

(片山雅紀)



第4図 久戸Ⅱ遺跡の基本層序図

4. 神成遺跡

(1) 概況と層序 (第8・11図、図版5・6)

神成遺跡は、事業区内の南側にあたり、南北は県道金沢井波線から町道石黒北山山線の間、東西は山山川左岸河岸段丘崖から県道福野城端線にまで広がる。北側で久戸Ⅱ遺跡、東側で久戸東遺跡、西側で梅原胡麻堂遺跡、宗守遺跡と近接する。

遺跡の東側では、古墳、古代、中世の遺

構を確認したが、西側では遺構、遺物包含層とも削平されるか、旧の流路内にあたる箇所が多く、集落の広がりは見られない。当遺跡周辺においても、昭和30年代には場整備が実施されている。それ以前の地形図を見ると、この西側部分が谷地形となっており、安定した生活基盤が獲得できる箇所では無いことが分かる。

基本層序は、1層：灰褐色粘質土（現代の耕作土）、2層：灰褐色土（床土等）、3層：黒褐色粘質土（中世の遺物包含層）、4層：黒色土（古墳、奈良・平安時代の遺物包含層）、5層：黄褐色粘質土（地山）、6層：黄褐色砂疊層（地山）である。層序は箇所によって異なり、耕上直下で地山面が露出し、遺構が検出される箇所もあれば、遺物包含層、遺構とも遺存状況が良好な箇所もある。中世遺構は、2層目直下から切りこんでいる箇所が多く、3層下に存在するものの方が少なかった（3'層）。古墳、古代の遺構は、4層目から切りこんでいる。

(2) 遺構

古墳時代、古代、中世の土坑、溝、ピット、近代の溝などを確認している。遺構が存在する箇所はまちまちであり、異なる時代の遺物包含層、遺構が重なって確認された箇所は無く、遺構検出面は一面である。遺跡の南側では、昭和30年代に実施された場整備の影響か、耕上直下が遺構検出面である箇所が多い。また逆に、遺跡の北側、特に北東部では遺物包含層、遺構とも保存状況は良好であった。

縄文土器などの縄文時代の遺物も確認しているが、地山面に埋没している状態で確認したものが多く、この時期の遺構は遺物包含層とも確認していない。古墳時代の遺構は、遺跡北東部に集中している。古代の遺構も遺跡東側に多い。北東部では、柱穴列や流路跡を確認しており、流路跡からは須恵器甕などの遺物が多く確認された。中世の遺構は、遺跡中央から西側にかけて存在している。西に行くにつれ、その密度は薄くなっている。

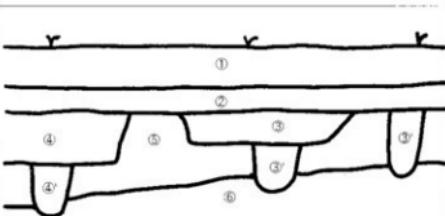
(3) 遺物 (第20～22図、図版16～20)

縄文土器、古墳土師器、古代土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、近世陶磁器等が出土している。
縄文時代の遺物

142～144は縄文上器・深鉢である。142は口径約40cm、器高約50cm、底部径が10cmを測る。外面は全体に縄文が施され、また口縁部にも縄文による刻み目がある。143は口縁部から外面にかけて縄文が施されている。144は底部である。いずれも、縄文時代晩期に属する。

古墳時代の遺物

145～147、150～158、160は、すべて土師器・甕の口縁部である。148、149は古墳土師器・小甕である。161は器台、162は蓋である。159は器台である。



第5図 神成遺跡の基本層序図

古代の遺物

163～168は須恵器である。163、168は甕の口縁部から胴部である。163は口径26cmで口縁部は外反し、168は口径15cmで口縁は直立する。ともに9世紀前半にあたる。164～166は杯の底部、167は杯蓋である。8世紀後半から9世紀前半にあたる。169～177は土師器である。169、172は甕の口縁部、170、171、173～176は椀、177は皿である。169は9世紀前半から中頃にあたる。170は9世紀中頃から後半、177は11世紀後半か。

中世の遺物

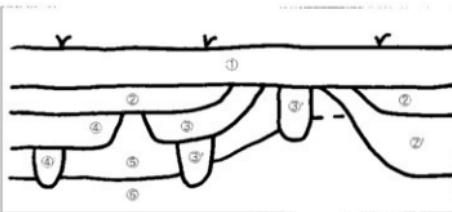
178～189は中世土師器・皿である。すべて非クロロ土師器である。178は口縁部が直立し181、182は外反する。

(佐藤聰子)

5. 梅原胡麻堂遺跡

(1) 概況と層序 (第8・12図、図版7・8)

梅原胡麻堂遺跡は、事業区西側宗守地内に位置する。北側で久戸、久戸Ⅱ遺跡、東側で神成遺跡、南側で宗守遺跡と接する。遺跡の東側は、神成遺跡との間に旧の谷地形が南北に存在する事から、近代の流路跡を何本か検出している。この流路跡の西側では、弥生、



第6図 梅原胡麻堂遺跡の基本層序図

古代、中世の遺構を確認している。弥生時代の遺構は、県営農道田中梅原線の周辺、古代はその北側部分、中世は調査対象地区北側から中央部にかけて存在している。

基本層序は、1層：灰褐色粘質土（耕作土）、2層：（近代以降の堆積土）、3層：（中世の遺物包含層）、4層：（古代の遺物包含層）、5層：黄褐色土（地山）、6層：黄褐色砂礫層（地山）である。遺跡の北側は削平されている箇所が多く、耕土直下で中世遺構（③）を多く検出している。遺跡中央部から南側については、古代、中世の遺物包含層、遺構とも遺存状況は良好である。弥生時代の遺物包含層、遺構（④）が存在する箇所は、旧の地形が大きく落ちこんでいる。対象地区内では、3時期の遺構を確認しているが、検出面に重なりは無くほぼ同じ面に遺存する。

(2) 遺構

弥生時代の土坑、古代の流路、土坑、中世掘立柱建物の一部とみられる柱穴列、土坑、溝を確認している。

弥生時代の遺物包含層は、30～40cmと厚い。検出した土坑からは、弥生時代中期の甕が出土している。この包含層、土坑を確認した箇所の北側には県営農道田中梅原線がある。この道路建設に伴い平成6年度に実施された本調査では、やはり弥生時代中期の甕、石鎚、管下などの遺物が確認されている。だが、当遺跡内でこの時期の遺構、遺物包含層が存在するのは、現在確認されている限りではこの箇所のみである。

古代の遺構には土坑が目立ち、須恵器・甕などの遺物が多く出土した。中世の遺構には、12世紀から13世紀の掘立柱建物と考えられる柱穴列が遺跡の北側で目立った。調査対象地区の西側に接する、久戸地区から宗守地区に伸びる町道の西側は、県営は場整備事業梅原地区にあたる。この近接区域は、平成7年度に試掘調査、9年度、10年度に本調査が行われている。試掘調査では、古代、中世期の遺

物包含層、遺構を確認しており、本調査では久戸地区との境から約200m南側近辺で、12世紀前半の掘立柱建物跡を数棟検出している。この試掘調査では、遺構の時期は東側に行くにつれ中世から古代へと古くなっていくことがわかっている。今回の調査対象地区で検出した古代の遺構は、その古代遺構の広がりの延長上にあたるとみられる。

(3) 遺物（第23図、図版21・22）

弥生土器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、近代の陶磁器がある。

弥生時代の遺物

190は弥生土器・甕である。口径約30cmを測る。口縁部は波状口縁に刻み目を施している。胴部は、内外面ハケナデが細かく施されている。外面胴部中央から下部にかけては、煤が大量に付着している。時期は弥生時代中期にあたる。

古代の遺物

191は須恵器・杯である。口径約13.5cm、器高は3.5cmである。時期は8世紀後半にあたる。このほかに、図化していないが須恵器・杯の底部、壺の底部、甕の胴部破片、土師器・甕の胴部破片が出土している。

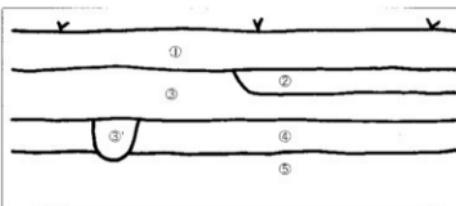
中世の遺物

192～200は中世土師器・皿である。いずれも12、13世紀に属する。201は珠洲・すり鉢の口縁部破片、202は壺の底部、203は青磁・椀の口縁部破片である。
(佐藤聖子)

6. 宗守遺跡

(1) 概況と層序（第8・12図、図版8）

宗守遺跡は、宗守の中央に位置する。東西に県道金沢井波線、南北に県道福野城堀線の道路が交差する一帯である。山田川扇状地の中央部にあたり、絶成・竹林遺跡よりも「数メートル低いが、東西に小さな谷の痕跡があつて低い台地となつていて」。基本層序は、1層：(耕作土)、



第7図 宗守遺跡の基本層序図

2層：(盛土)、3層：黒褐色粘質土（遺物包含層）、4層：黄褐色粘質土（地山1）、5層：黄褐色砂礫層（地山2）となる。

(2) 遺構

遺跡の北東部側で柱穴、土坑が検出された。本遺跡のすぐ西に権現堂川が流れている。試掘調査では、氾濫を受けたと思われる箇所は遺構が確認されなかった。また権現堂川の右岸は、宅地改良のために遺跡は破壊されていると考えられる。調査区東では谷地形が確認され、蓮如が杖で地をうがつと清水が涌き出たといわれる湧水地が今も残っている。こうした谷地形や水位が高く短時間で水が涌く地形環境は蓮如清水の伝承からもうかがわれる。調査区中央部では遺構と遺物包含層の遺存を確認した。遺跡地の中心に位置し、中世の上豪屋敷とみられる宗守城跡の周辺にあった集落跡と考えられる。

(3) 遺物（第23図・図版22）

縄文土器、須恵器、上師器、珠洲、常滑が出土した。

縄文時代の遺物

204は縄文土器の深鉢の口縁部である。外面に爪形状の沈線文が施されている。

古代の遺物

205、206は須恵器・蓋である。口径は11.4cmである。

中世の遺物

207、208は十師器・皿である。207は磨耗が激しい。208は内外面にナデを施す。209は常滑・壺である。

口径は18.0cmである。外面と口縁部内面に暗緑色の自然釉がかかる。焼成は良好だが、焼成ぶくれがある。210は珠洲・壺の体部破片である。
(西村倫子)

V まとめ

1. 在戸遺跡は古代が主体で、縄文時代から中世まで続く集落遺跡である。遺跡内の東側、山田川左岸の段丘際に濃密な遺構の広がりを確認しており、集落の中心がこの辺りにあったと考えられる。
2. 久戸遺跡は中世を中心とした遺跡である。縄文土器や古代の須恵器・土師器も出土しているが、その点数はわずかであり、遺構も検出していない。
3. 久戸Ⅱ遺跡は古代を主体に、弥生時代から中世まで続く集落遺跡である。弥生時代・古代の集落は遺跡の東側・在戸遺跡から続く段丘の際を中心に広がっている。また、中世の集落は遺跡の西側に広がっている。
4. 神成遺跡は、古墳、古代を主体とし中世期まで続く集落跡である。縄文土器の出土も確認したが、その出土箇所は散逸的であり、遺構が存在する可能性は低い。古墳時代の遺構は遺跡の北東部のみで検出していたが、地元の方によれば、昭和30年代のは塙整備以前には遺跡南東寄りに塙状の高まりがあり、この周辺から赤彩の土師器・器台など完形品に近い遺物が多数出土していたそうである。集落の規模は、現在確認している範囲よりなお広がりがあったのではないかだろうか。中世期の遺構は遺跡中央部で確認したもの、建物跡など生活環境がうかがえる遺構はあまり確認できなかった。また、遺跡西側部分で「観音塙」と言い伝えられている箇所があったが、今回の調査では、関連する遺構・遺物は確認できなかった。
5. 梅原朝摩堂遺跡は、弥生時代・古代・中世を主体とする。東海北陸自動車道建設、梅原地区県営は場整備事業に伴う調査では、遺跡全体でみると、集落は12世紀に北側（現在の梅原・久戸地区の境）が主体であったのが、時代を経るにつれ南側に移動していき16、17世紀には現在の県道金沢井波線周辺が主体であったと考えられている。今回の調査から、特に12、13世紀の掘立柱建物をはじめとする遺構は、遺跡北側から北東部にかけて存在する事が分かった。また、古代の遺構は遺跡東側に集中しているようである。
6. 宗守遺跡は、古代・中世を主体としている。ただ、当該期の集落となる遺構はあまり確認できなかった。宗守遺跡の南側には、宗守城跡・宗守寺屋敷遺跡が存在するが、関連性は今までの調査では特に見出せなかった。また福光町史によると、遺跡西側で縄文時代中期の完形品の鉢が発見されており、このことからも縄文時代の遺跡として周知されていた宗守遺跡であったが、縄文土器破片の出土はあったものの、遺物包含層・遺構は確認できなかった。
7. 今回の調査以前から周知の遺跡であった久戸東遺跡においても試掘調査を実施したが、遺物包含層・遺構とも確認されず、耕土直下で黄褐色砂礫層である地山が露出した。医王山文化調査をまとめた「医王は語る」によれば、当遺跡では田屋川原の合戦の際に使用された其具が出土しているとある。

8. 試掘調査による遺跡範囲図は第8図、各遺跡の詳細は、第3表のとおりである。北山田北部地区を全体でみると、縄文時代については遺物の出土を確認したが、遺物包含層、遺構は確認できなかった。弥生時代の遺構、遺物についても、梅原胡摩堂遺跡内の狹小な範囲での確認であった。古墳時代には、事業区内の東側にかけて遺構、遺物があり、古代では事業区の中央部、広範囲で集落が広がっていることがわかった。中世期においても、在房から宗守遺跡まで集落跡を確認した。事業区内では、山田川左岸の氾濫原、中央部に存在する旧地形の谷部分以外で、ほぼ全域で遺跡の広がりを確認した。

(佐藤聖子・片山雅紀・西村倫子)

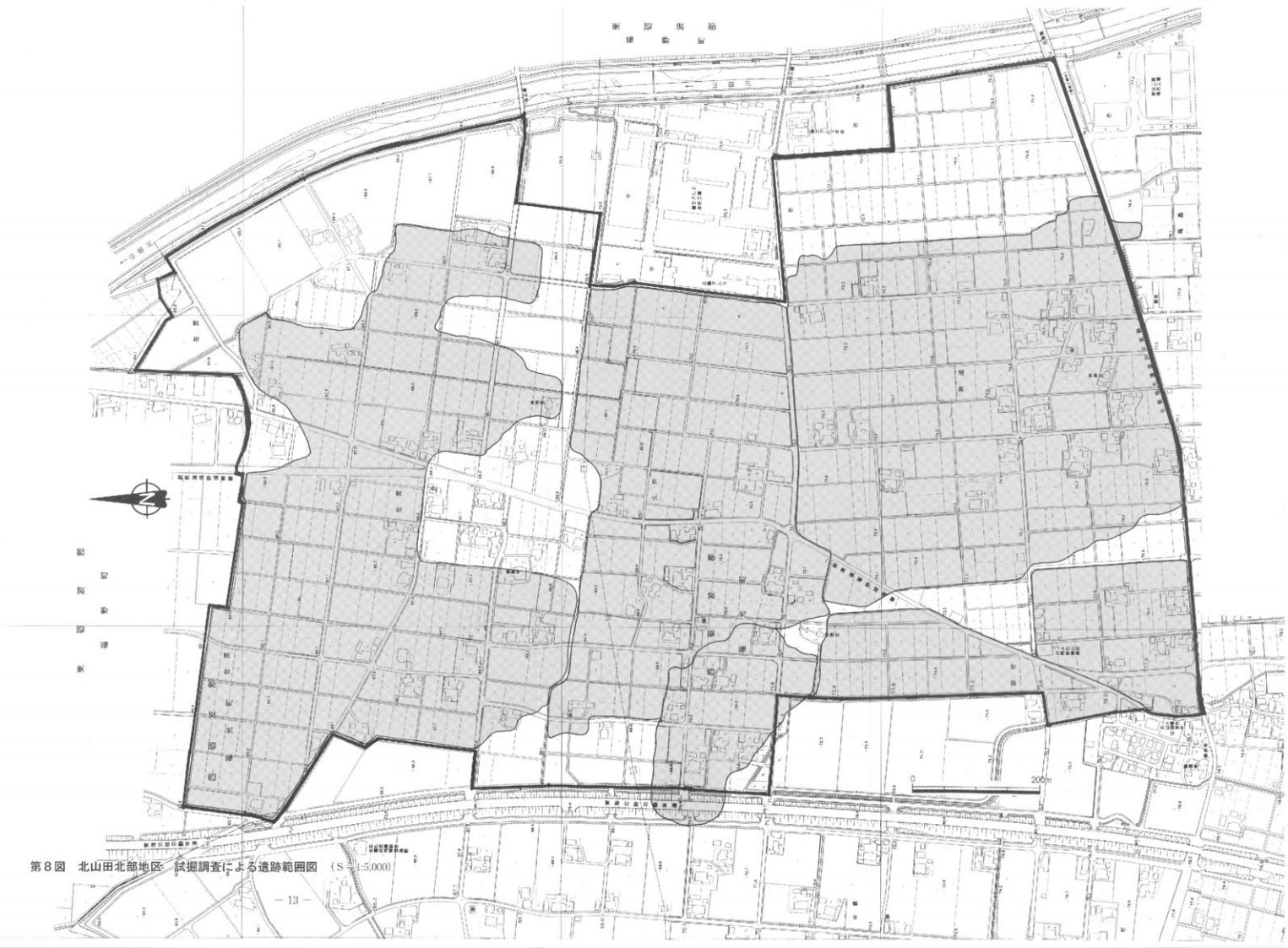
第3表 遺跡総括

番号	遺跡名	時代	遺跡の種別	推定面積 (m ²)	備考
1	在房遺跡	縄文、奈良・平安、中・近世	散布地・集落	338,000	
2	久戸遺跡	縄文、奈良、中・近世	散布地・集落	44,000	
3	久戸Ⅱ遺跡	縄文、奈良・平安、中・近世	散布地・集落	211,000	
4	久戸東遺跡	縄文、古代、中世	散布地	8,000	遺物包含層、遺構とも確認されず
5	神成遺跡	縄文、奈良・平安、中・近世	散布地・集落	300,000	
6	梅原胡摩堂遺跡	縄文、奈良・平安、中・近世	散布地・集落	42,000	
7	宗守遺跡	縄文、古代、中世	散布地	17,000	

参考文献

- 内田亜希子1997「越中における古代土師器の編年予察」
『埋蔵文化財調査概要一平成8年度』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
- 宇野隆夫1989「考古資料による古代と中世の歴史と社会」
宇野隆夫1991「律令社会の考古学的研究」
財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所1996
『梅原加賀坊遺跡、久戸遺跡、梅原安丸遺跡、田尻遺跡発掘調査報告』
財团法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所『梅原胡摩堂遺跡（遺構編）』
山海堂1995『技術者のための地形学入門』
北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第3号』
北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第4号』
北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第5号』
北陸古代土器研究会1996『北陸古代土器研究第6号』
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第7号』
三島道子1998「第V章考察 3 五社遺跡古代後期の土師器の編年について」
『五社遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
吉岡康暢1991『日本海域の上器・陶磁[古代編]』六典出版
福光町教育委員会1995『富山県福光町 梅原落戸遺跡Ⅰ』
福光町教育委員会1995『富山県福光町 梅原胡摩堂遺跡Ⅱ』
福光町教育委員会1996『富山県福光町 梅原落戸遺跡Ⅲ』
医王山文化調査委員会『医王は語る』

第8図 北山田北部地区 試掘調査による遺跡範囲図 (S=1:5,000)





第9図 在房遺跡概要図 (S=1:3,000)



第10図 久戸遺跡・久戸II遺跡概要図 ($S=1:2,000$)



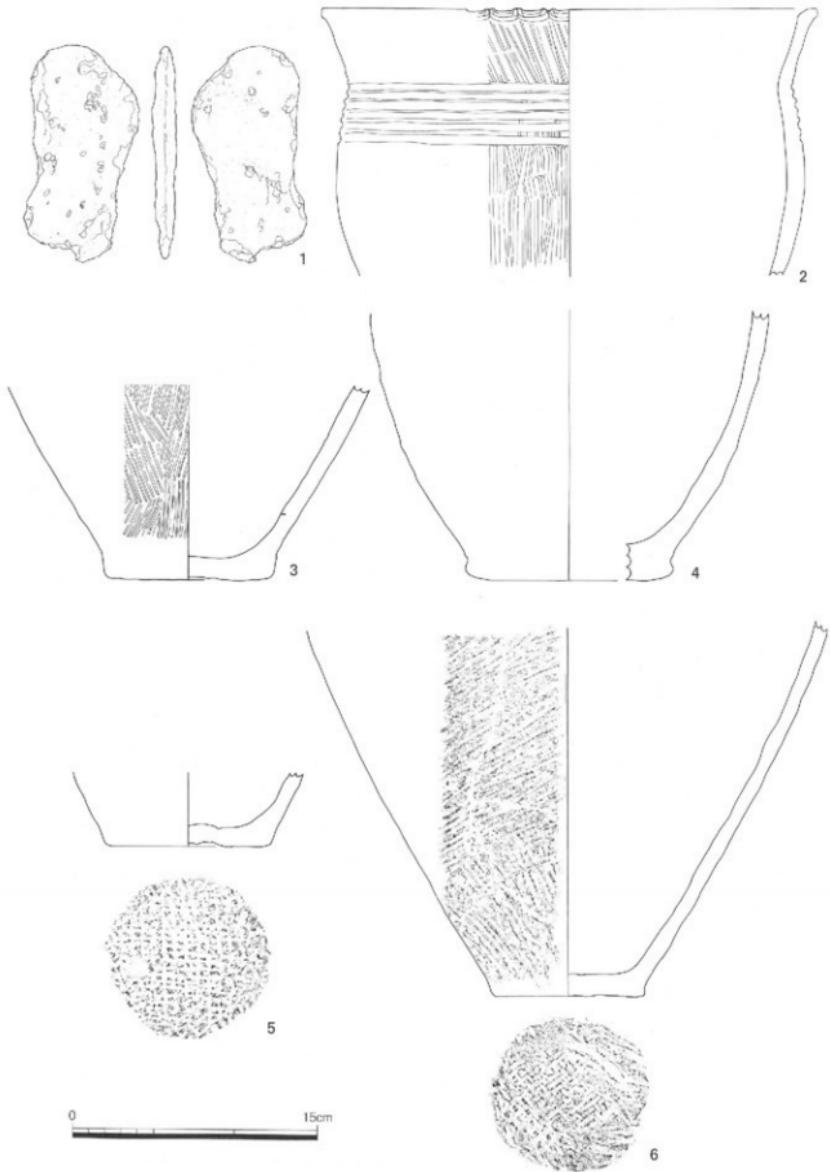
第11図 神成遺跡概要図 (S=1:2000)



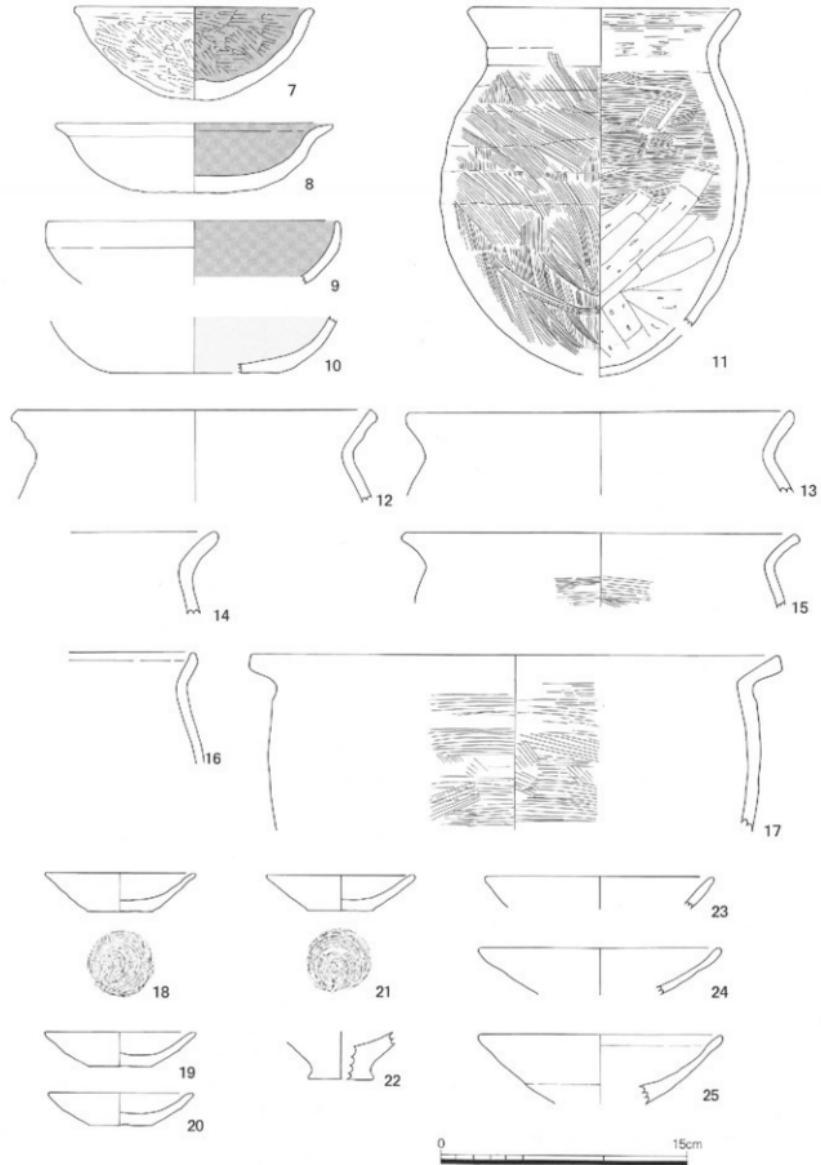
第12図 梅原胡摩堂遺跡・宗守遺跡概要図 (S = 1:2000)

(S = 1:2000)

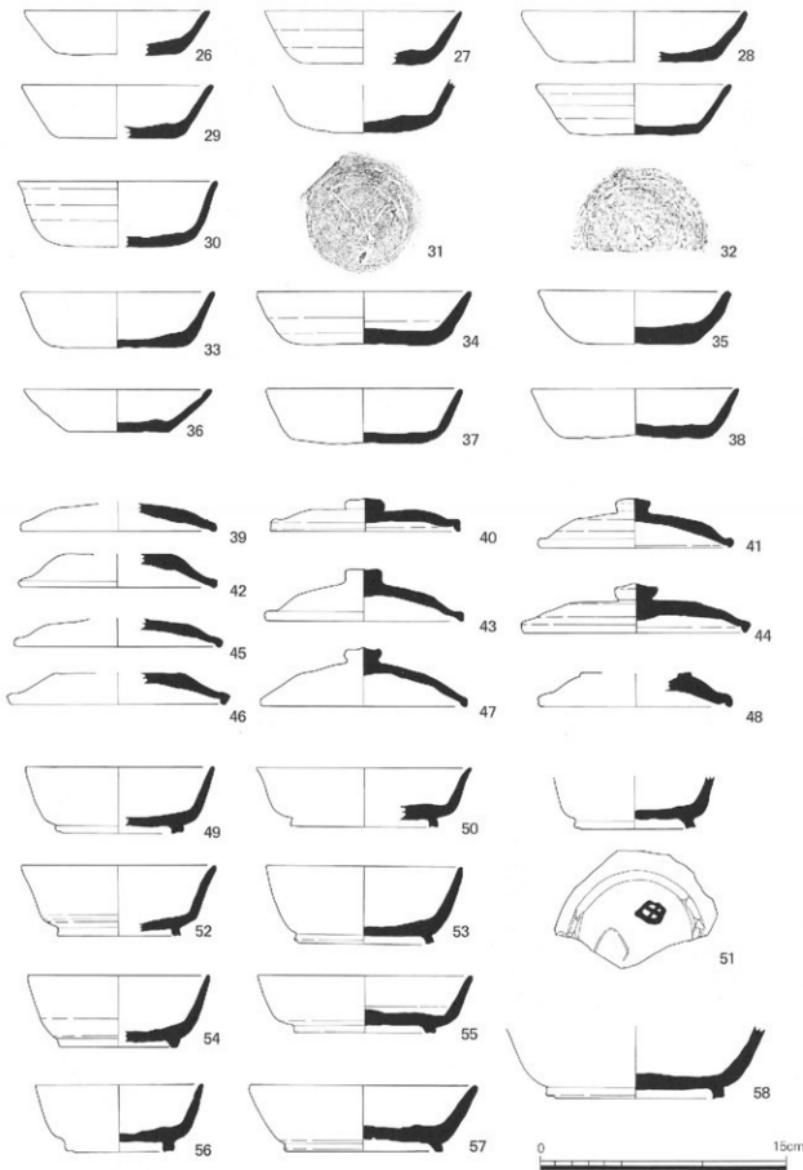
21



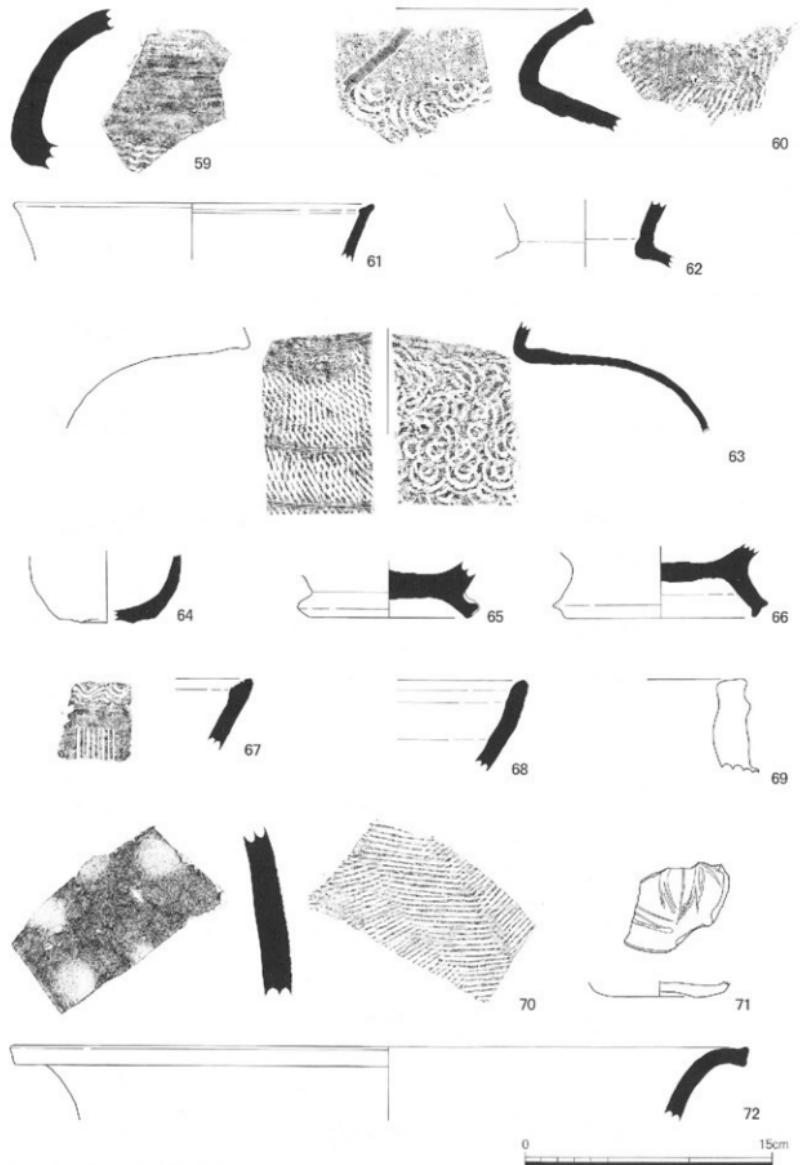
第13図 在房遺跡の遺物(1) (S=1:3)



第14図 在房遺跡の遺物(2) (S=1:3)

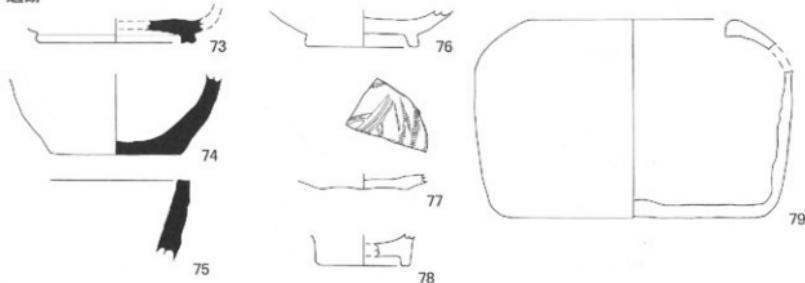


第15図 在房遺跡の遺物(3) (S=1:3)

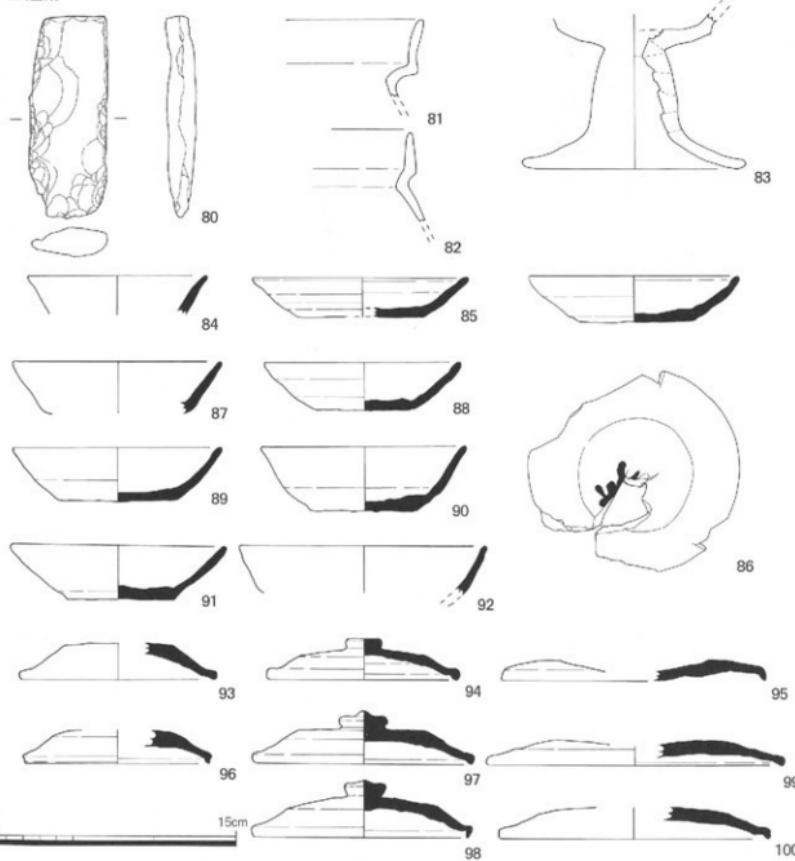


第16図 在房遺跡の遺物(4) (S=1:3)

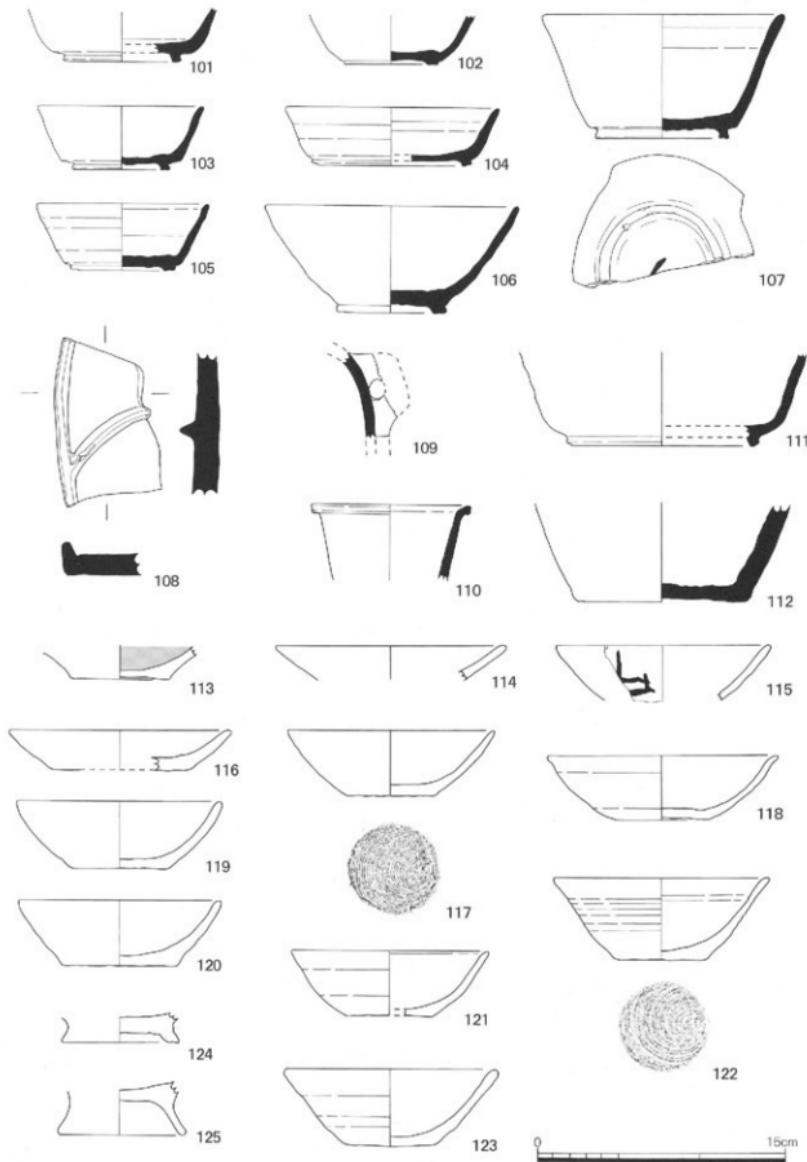
久戸遺跡



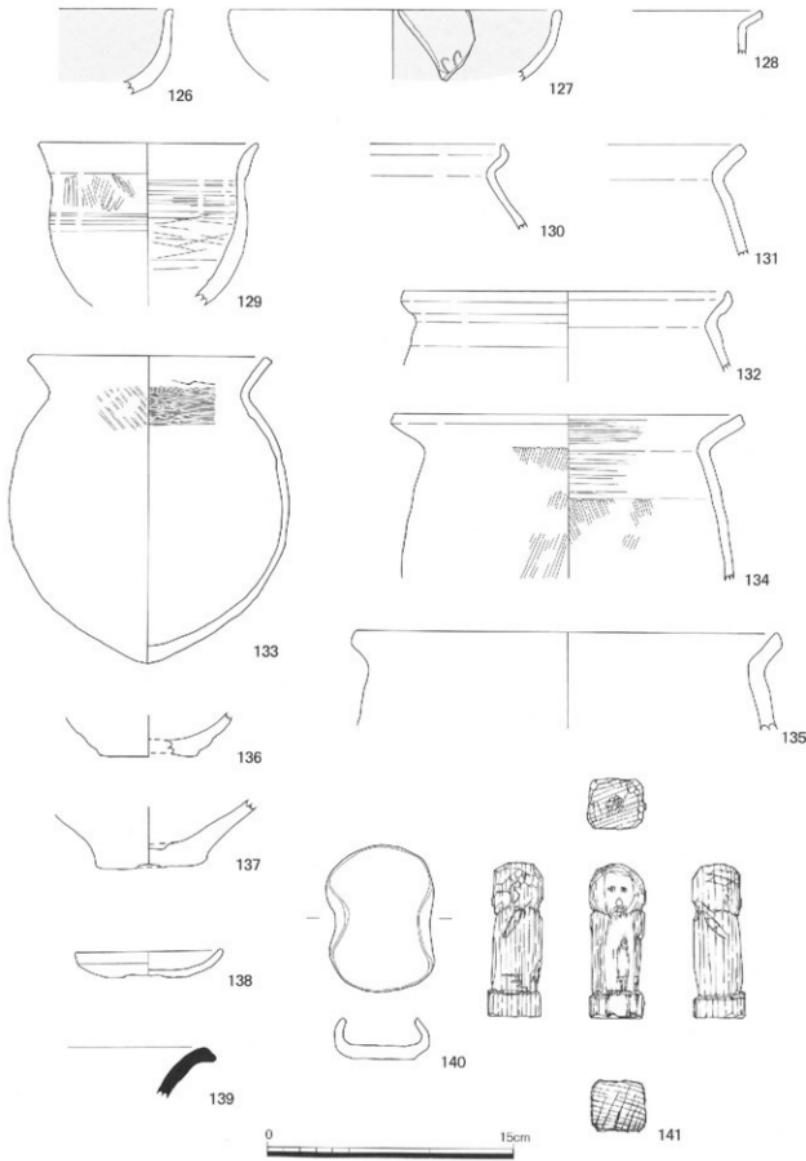
久戸 II 遺跡



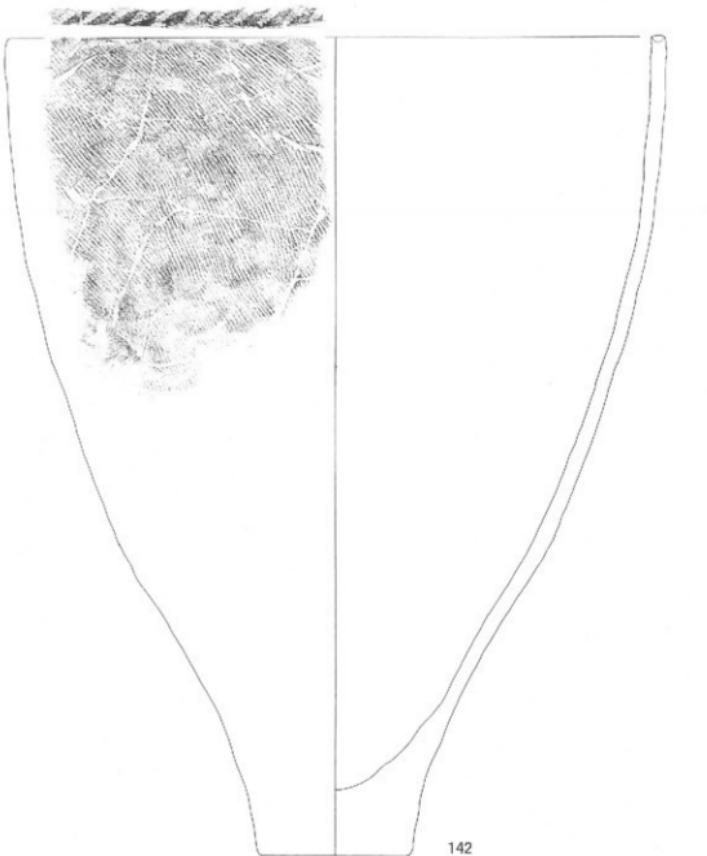
第17図・久戸遺跡・久戸 II 遺跡の遺物(1) (S=1:3)
(73~79) (80~100)



第18図 久戸Ⅱ遺跡の遺物[2] (S=1:3)



第19図 久戸II遺跡の遺物(3) (S=1:3)



142

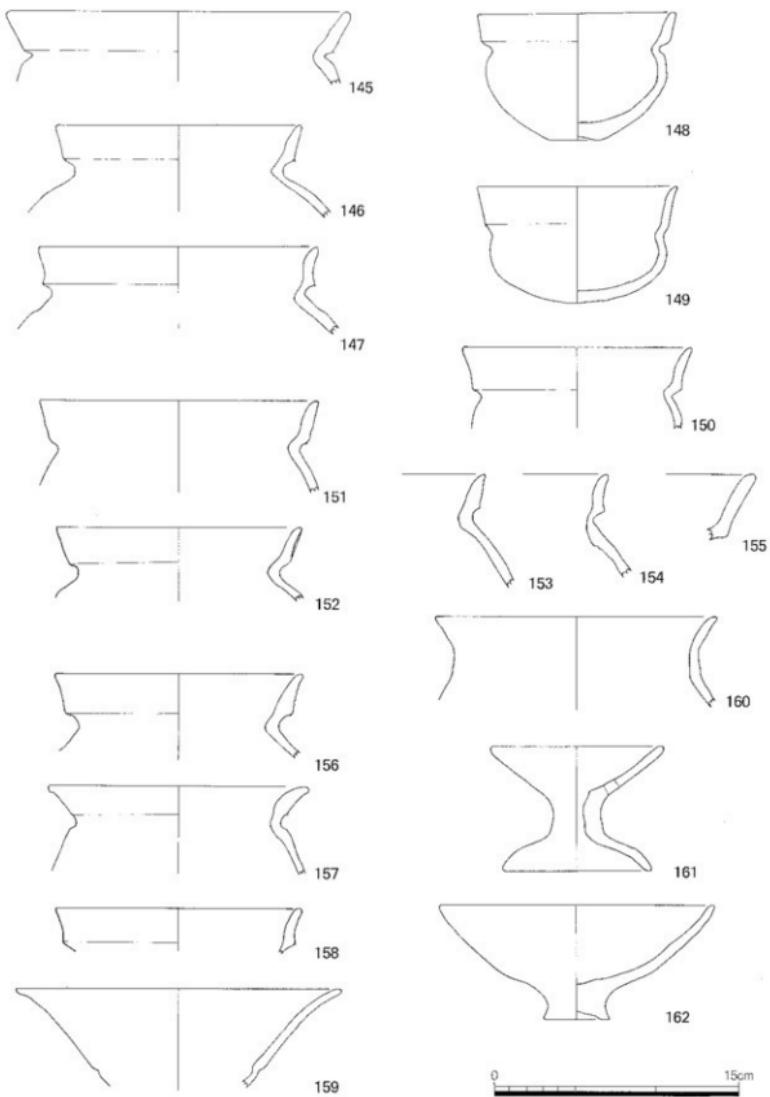


143

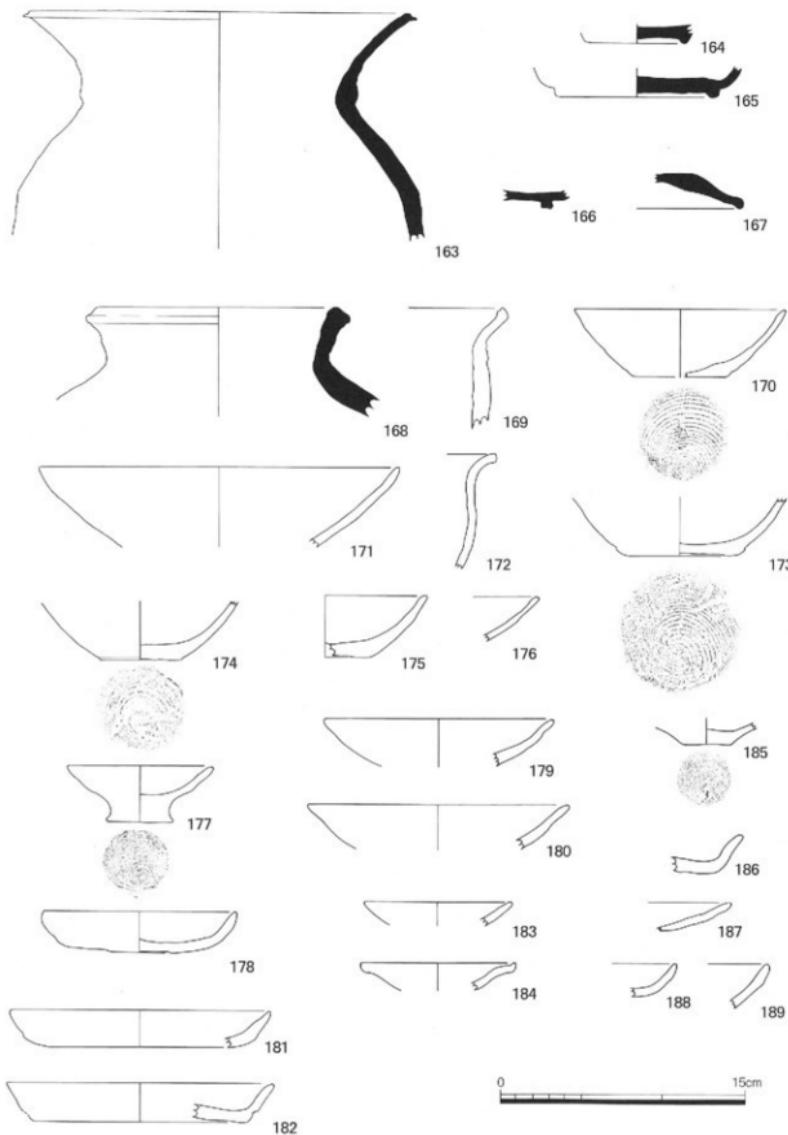
144



第20図 神成遺跡の遺物(1) (S=1:3)

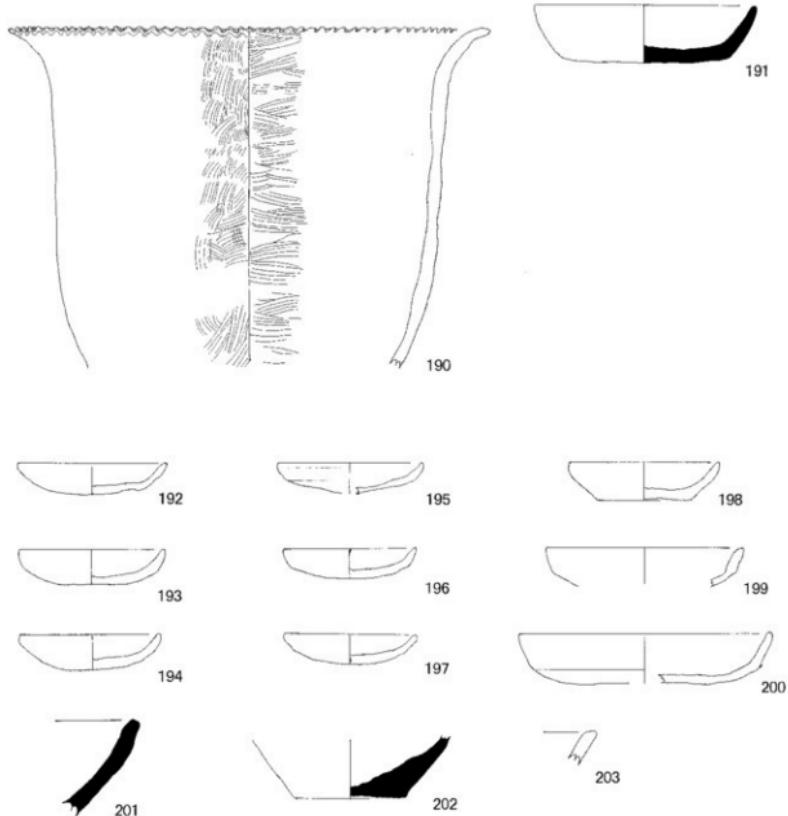


第21図 神成遺跡の遺物(2) (S=1:3)

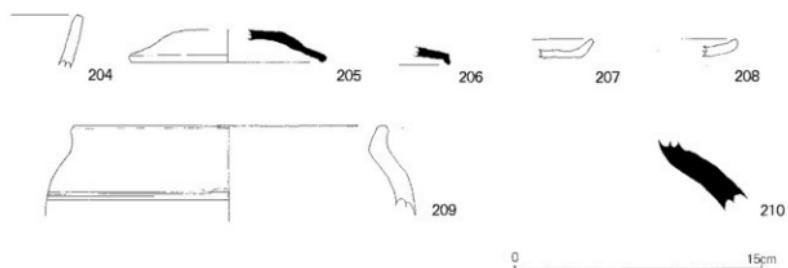


第22図 神成遺跡の遺物(3) (S=1:3)

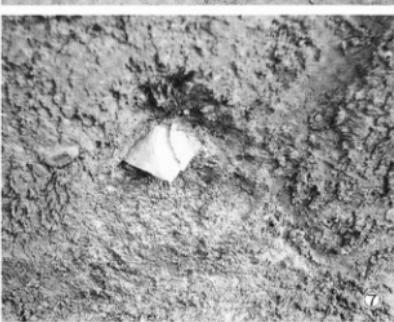
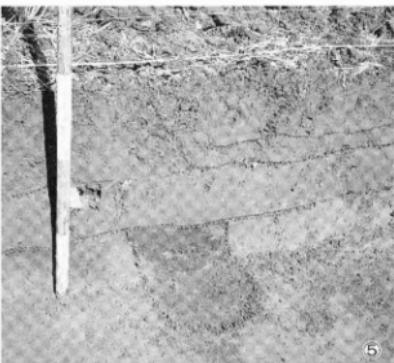
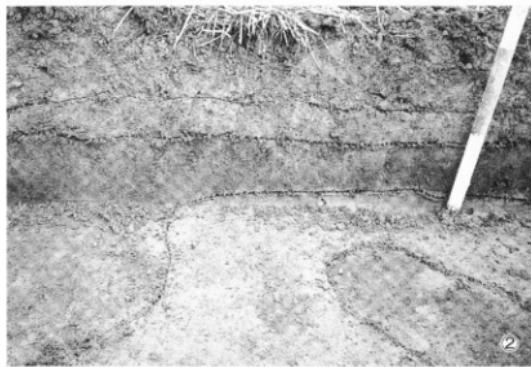
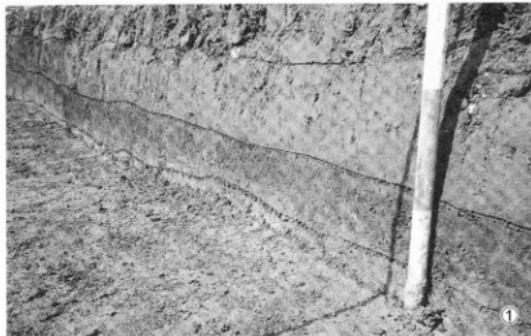
梅原胡摩堂遺跡



宗守遺跡



第23図 梅原胡摩堂遺跡・宗守遺跡の遺物 (S=1:3)
(190~203) (204~210)



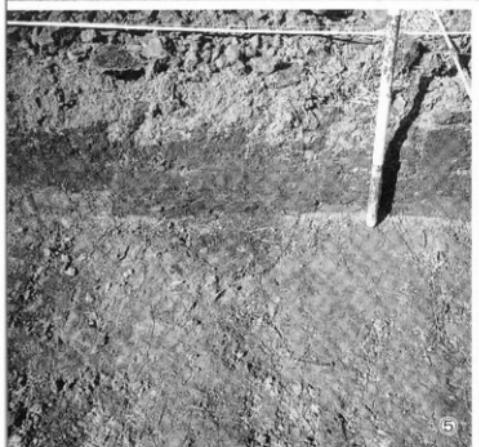
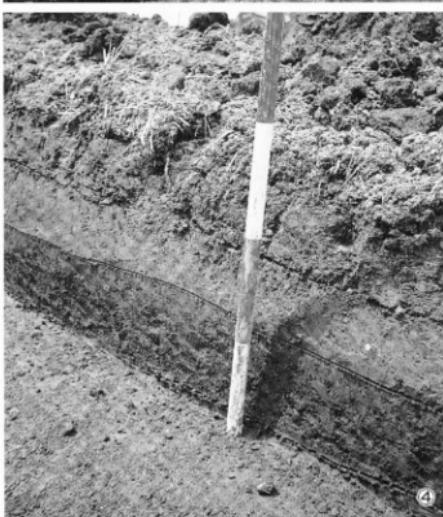
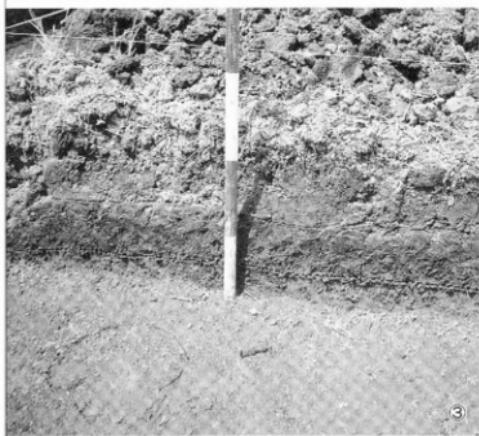
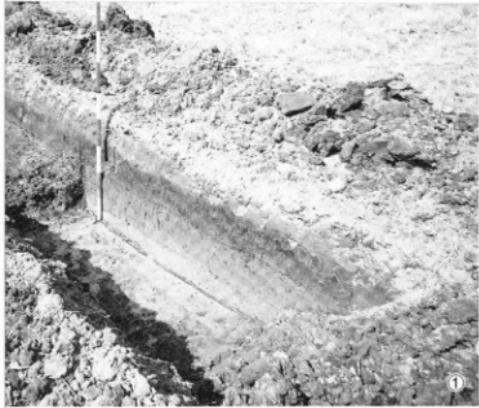
図版1 在房遺跡

①145T（第三次）
⑤137T（第三次）

②81T（第四次）
⑥6T（第二次）

③81T（第四次）
⑦64T（第四次）

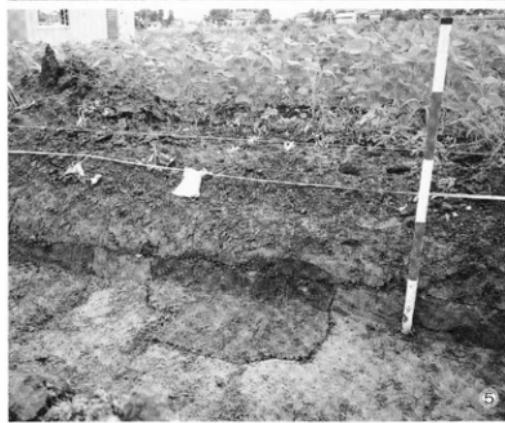
④81T（第二次）



図版2 久戸遺跡

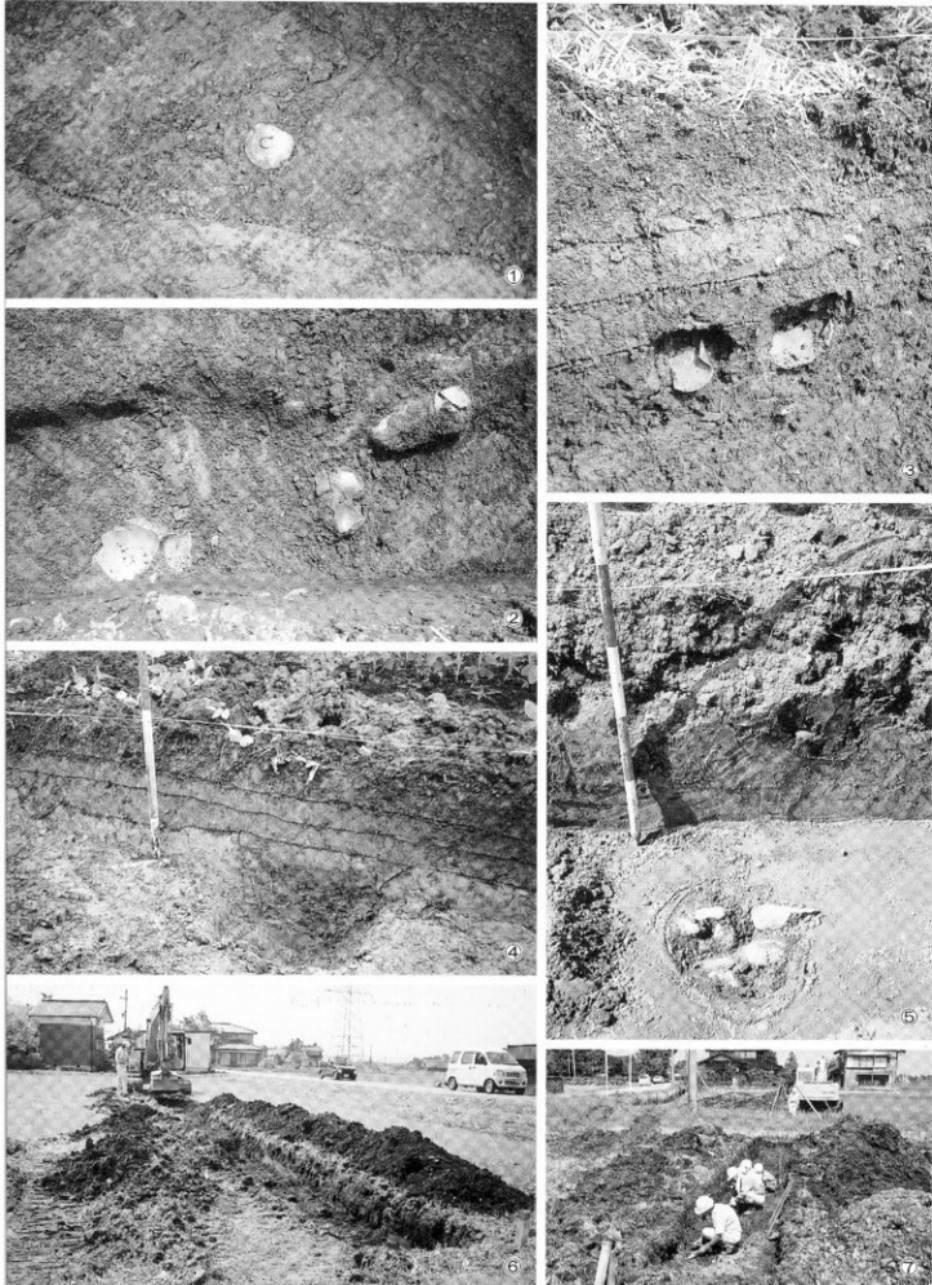
①42T（第一次）
⑤15T（第二次）

②9T（第二次）
③32T（第一次）
④9T（第一次）
⑥作業状況（第一次）



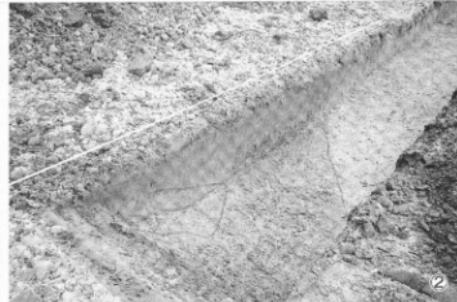
図版3 久戸Ⅱ遺跡(1)

- ①28T(第二次) ②62T(第四次) ③67T(第二次) ④16T(第三次)
⑤60T(第二次) ⑥10T(第一次)



図版4 久戸Ⅱ遺跡(2)

- | | | |
|-----------------|----------------|------------|
| ①24T (第二次) | ②19T (第四次) | ③27T (第三次) |
| ⑤6T (第一次) | ⑥6T 作業状況 (第四次) | ④48T (第二次) |
| ⑦43T 作業状況 (第三次) | | |



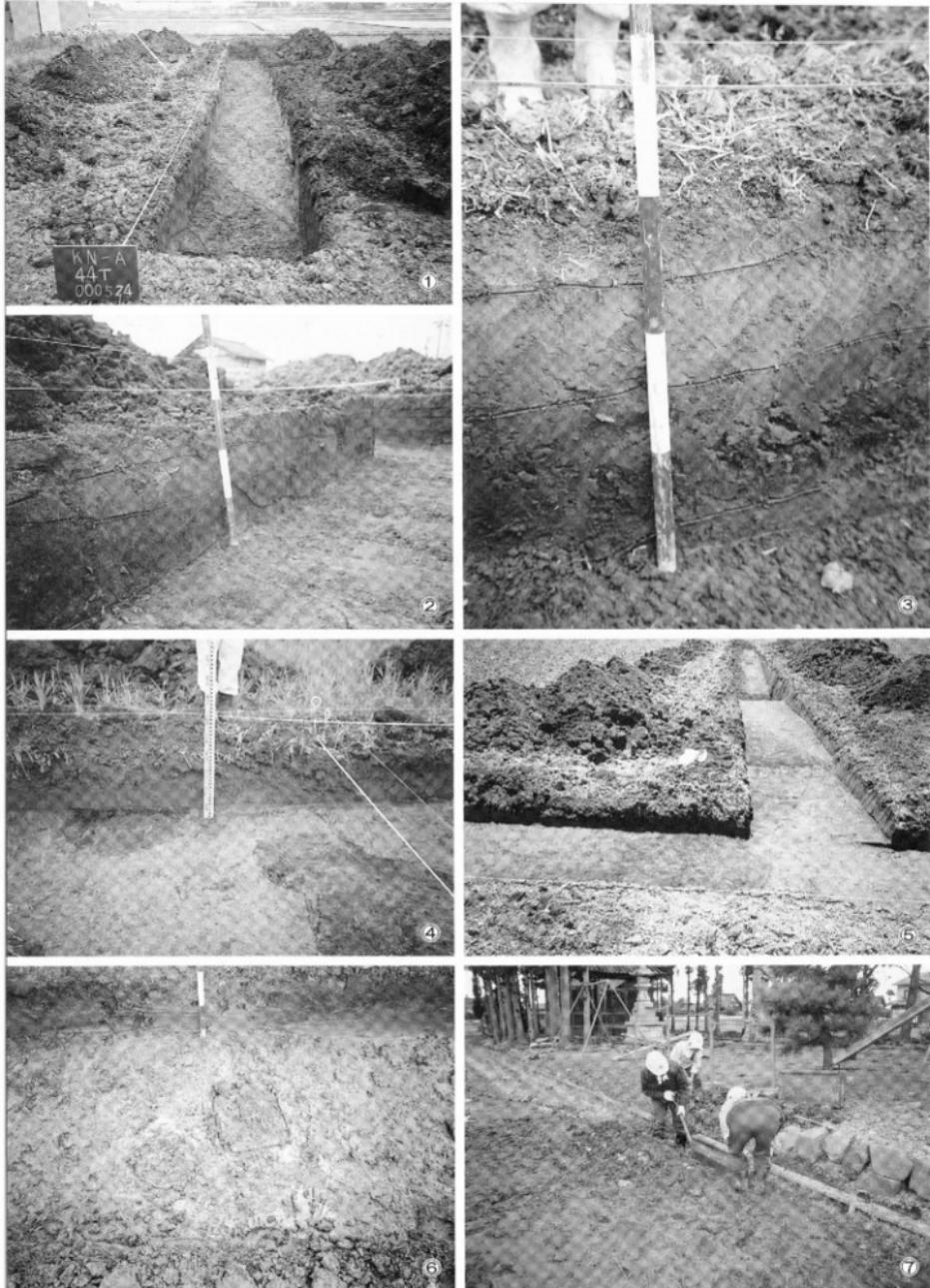
図版5 神成遺跡(1)

①62T
⑤19T

②44T
⑥19T

③69T
⑦60T

④28T
⑧2T 作業状況



図版6 神成遺跡(2)

①44T
⑤60T

②19T
⑥13T

③28T
⑦49T 作業状況

④26T



①



②



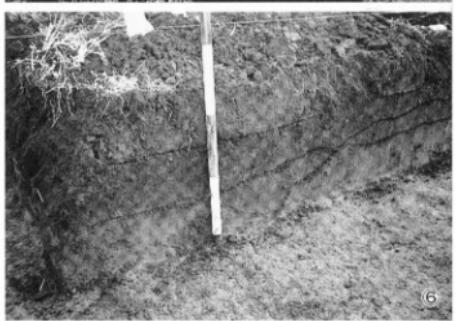
③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

図版7 梅原胡摩堂遺跡(1)

①10T
⑤17T

②16T 作業状況
⑥18T

③10T
⑦20T

④11T
⑧45T



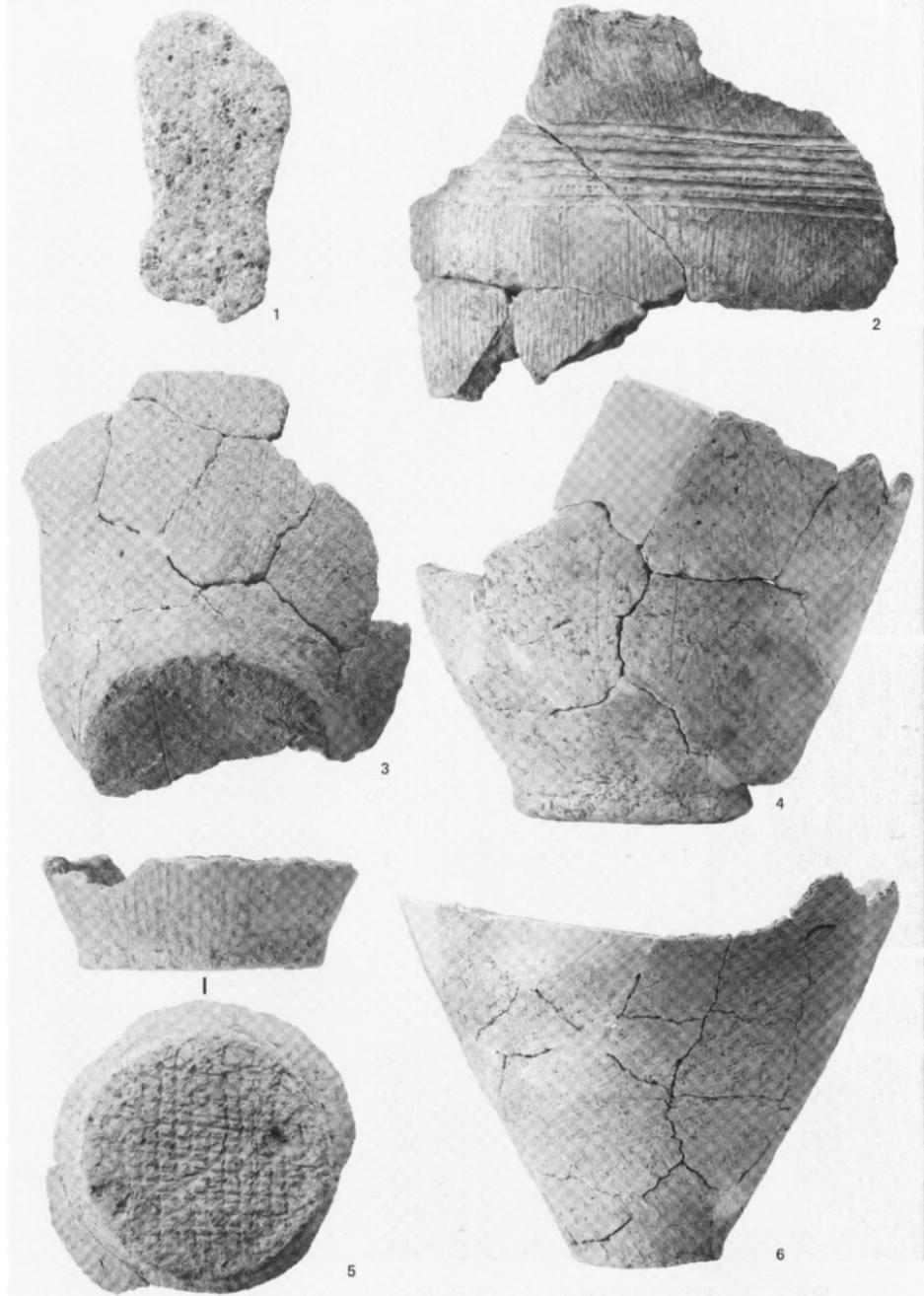
図版8 梅原胡摩堂遺跡②①～⑤・宗守遺跡⑥～⑧

①54T
⑤43T

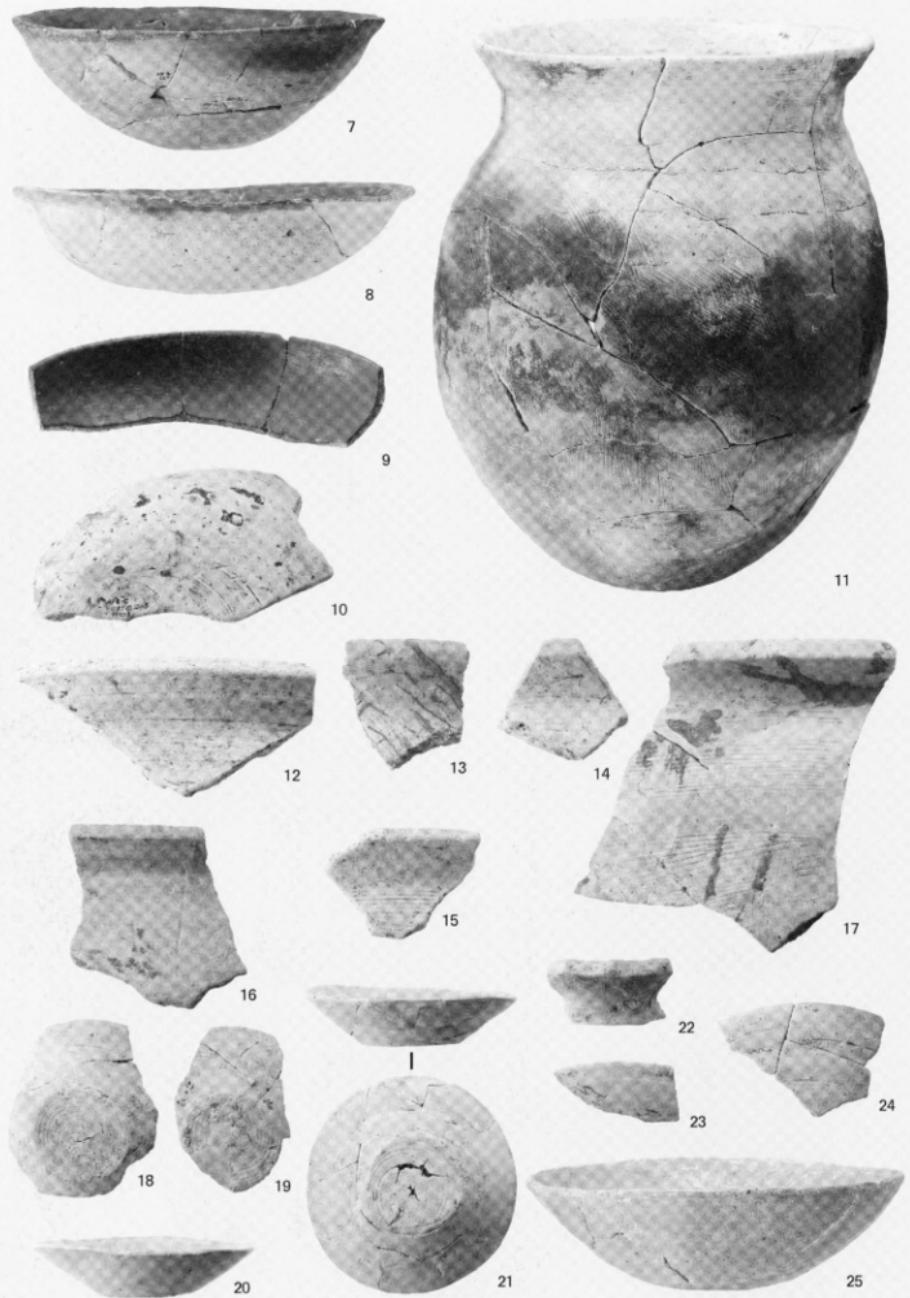
②43T
⑥1T

③20T
⑦7T

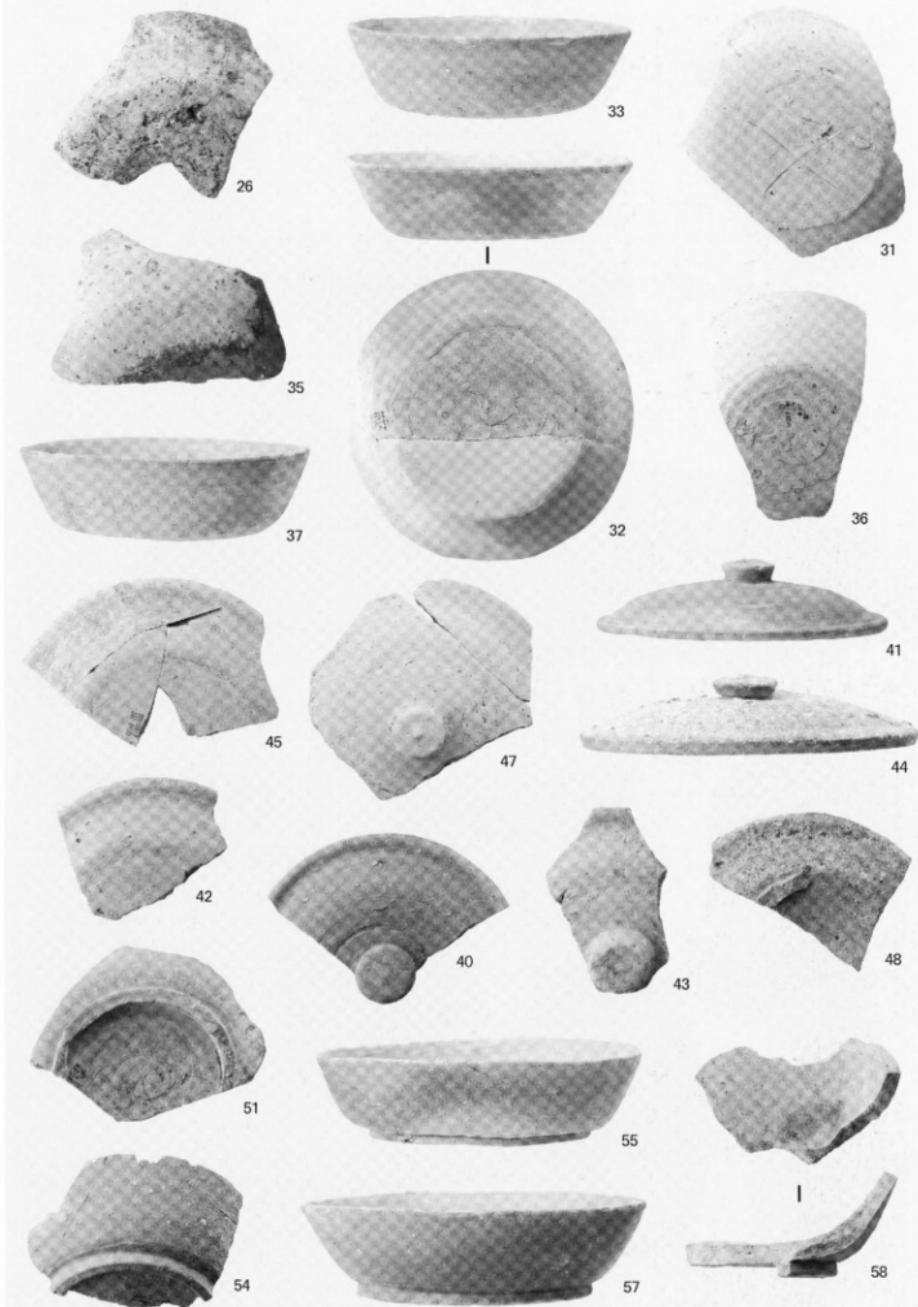
④21T
⑧9T



図版9 在房遺跡の遺物(1) (S=1:2, 6のみ1:3)



図版10 在房遺跡の遺物(2) (S=1:2)



図版11 在房遺跡の遺物(3) (S = 1:2)



59



60



62



61



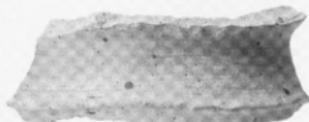
63



64



65



66



67



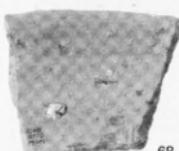
70



69



71

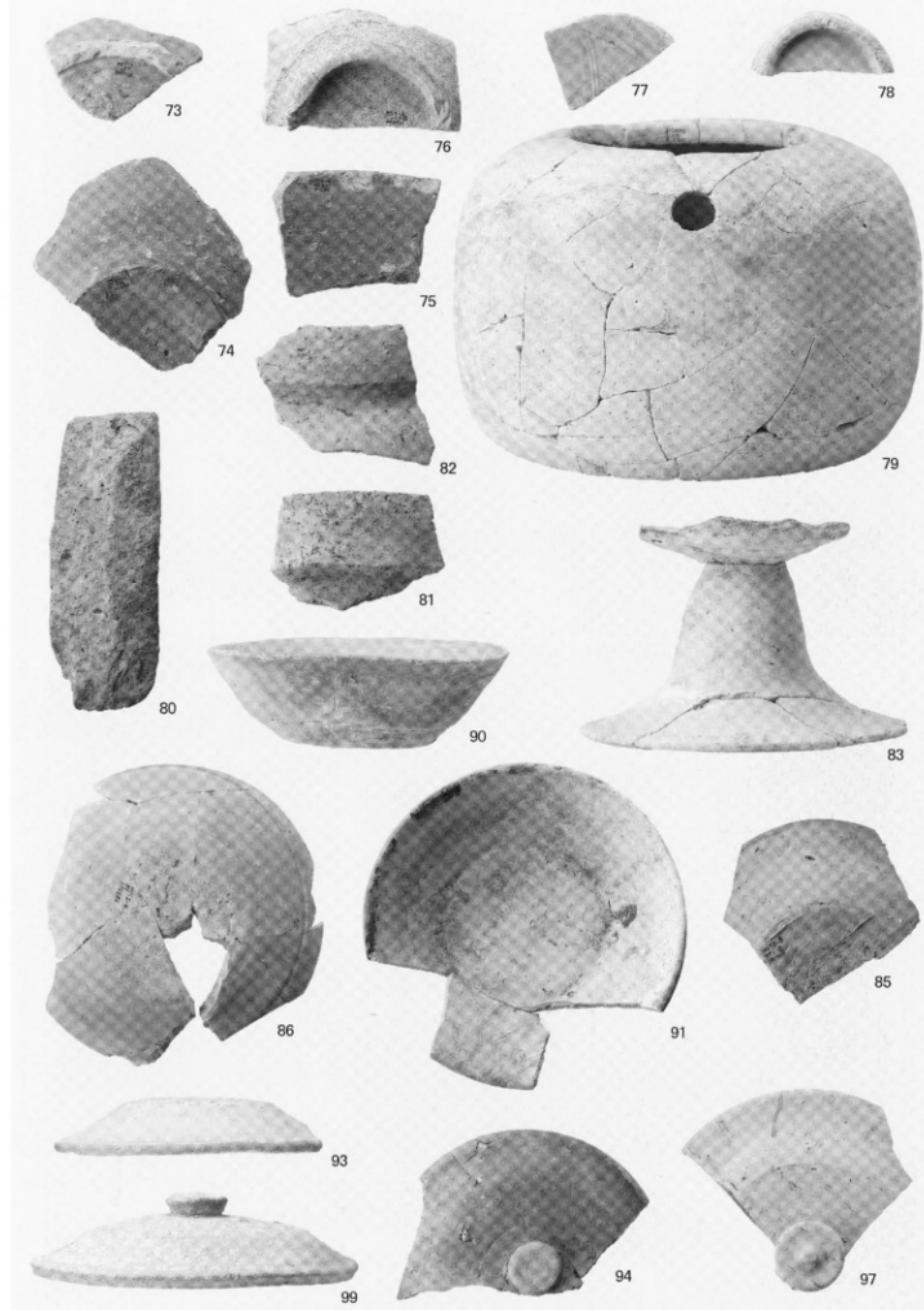


68

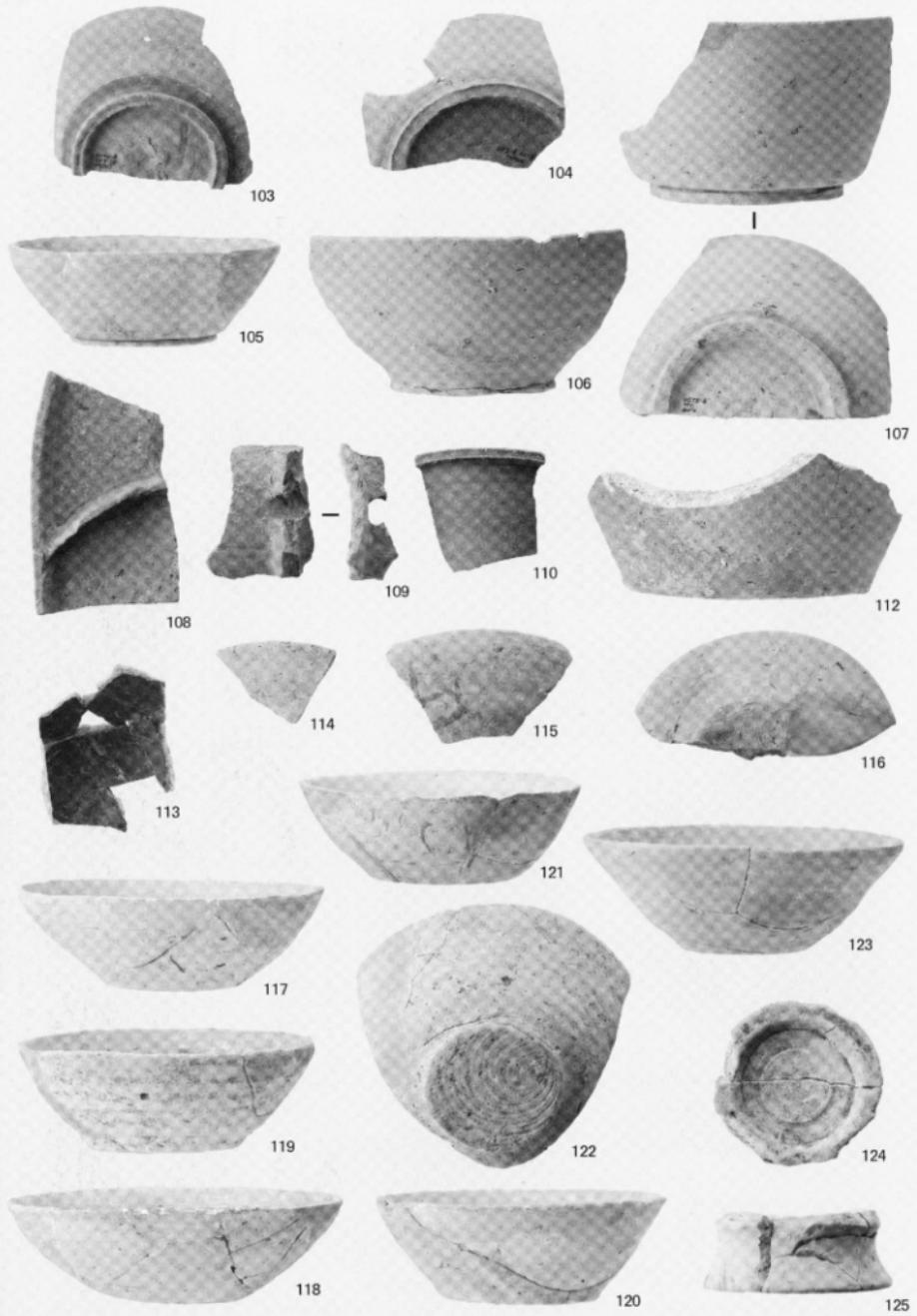


72

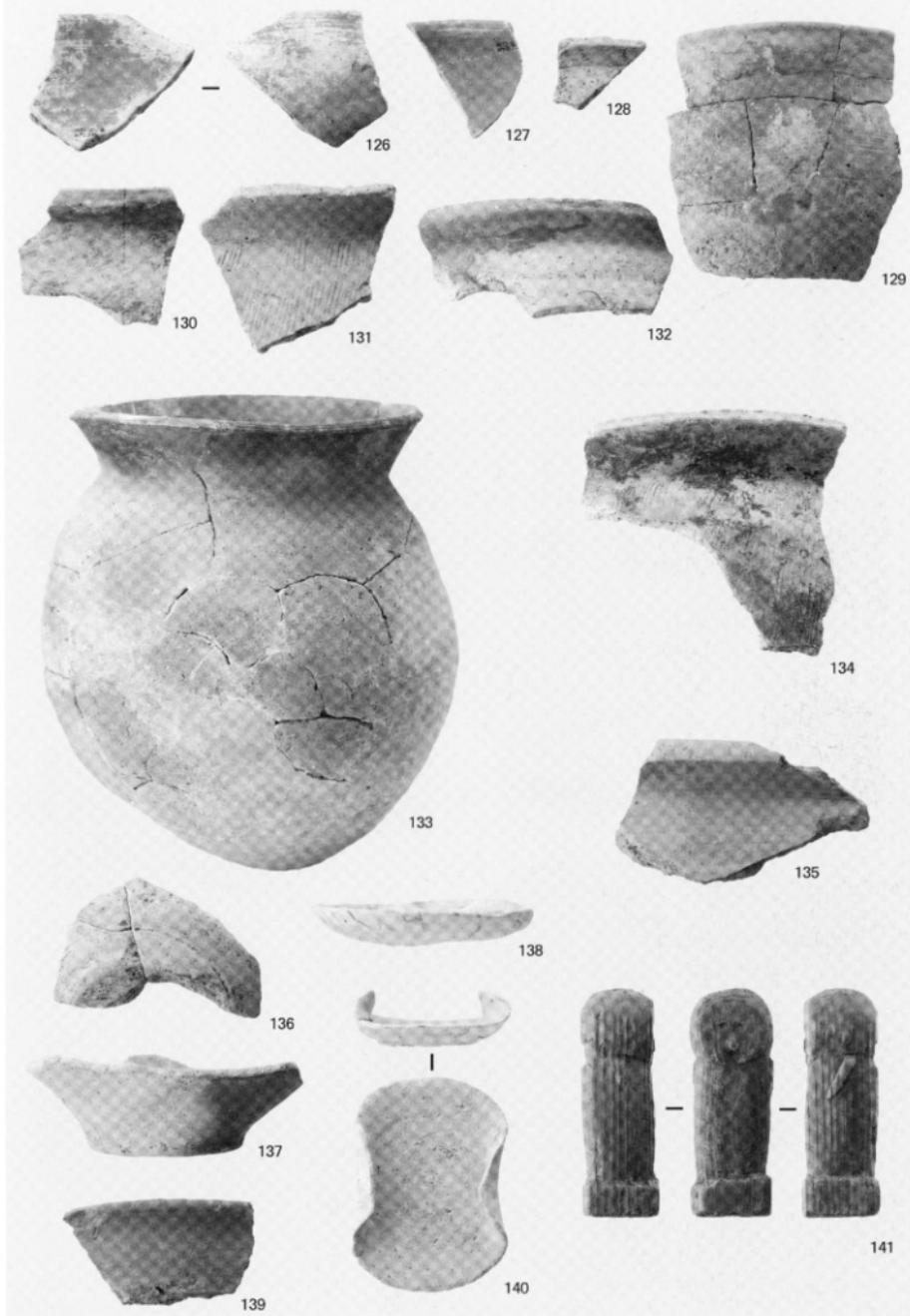
図版12 在房遺跡の遺物(4) (S = 1:2)



図版13 久戸遺跡・久戸II遺跡の遺物(1) (S=1:2)
(73~79) (80~97)



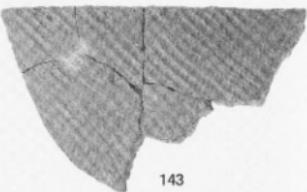
図版14 久戸Ⅱ遺跡の遺物(2) (S=1:2)



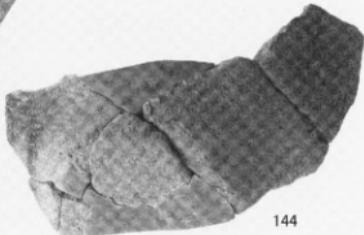
図版15 久戸II遺跡の遺物(3) (S=1:2)



142

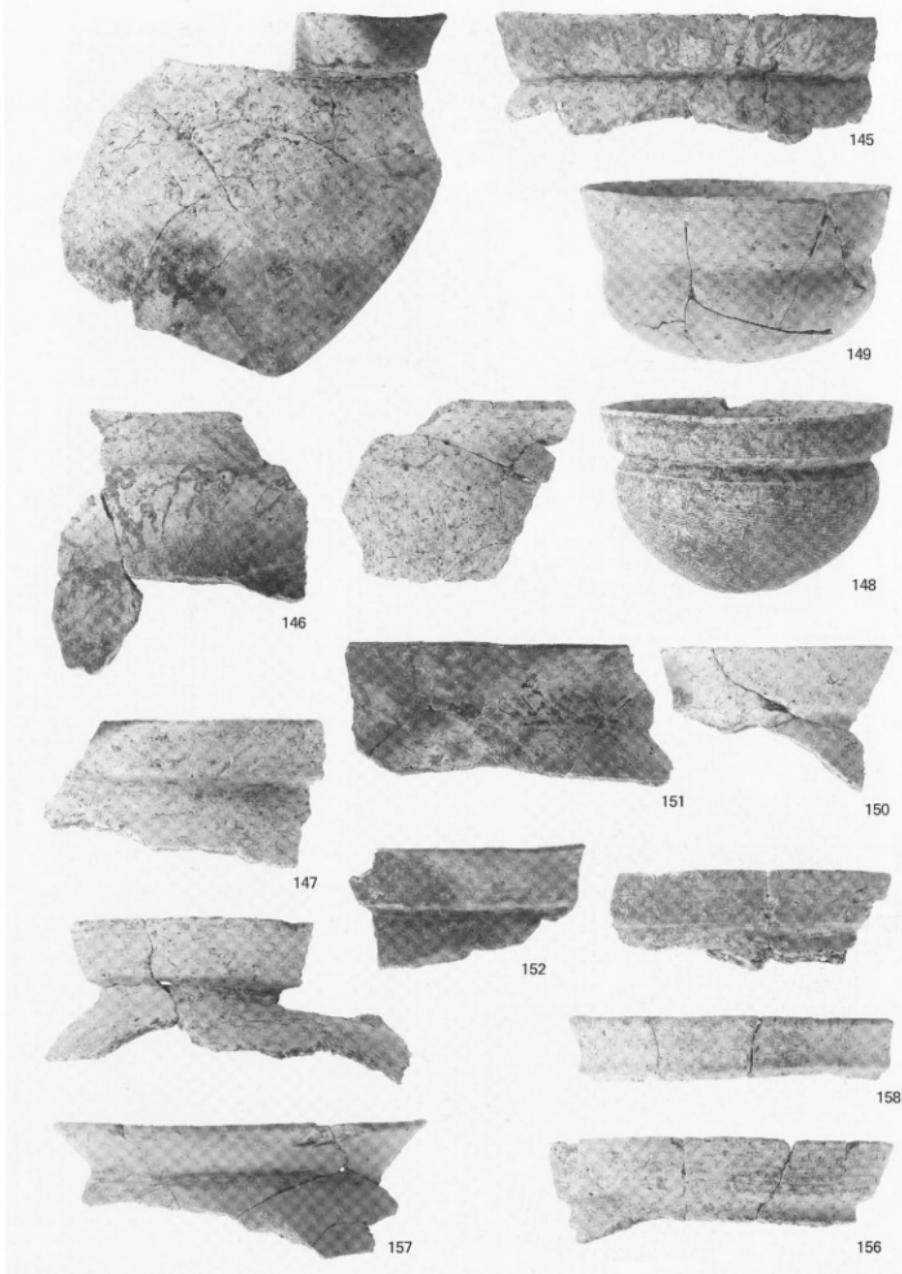


143

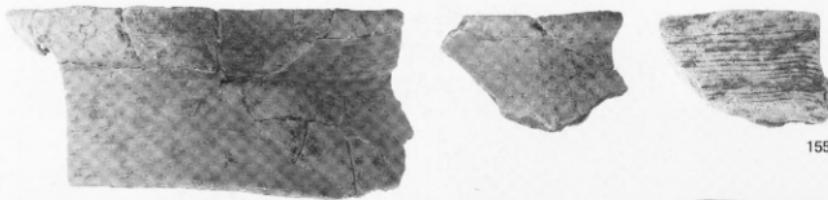


144

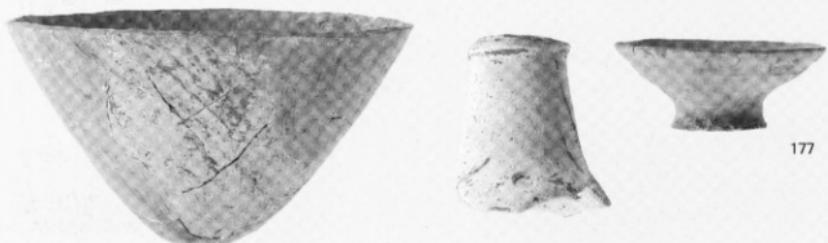
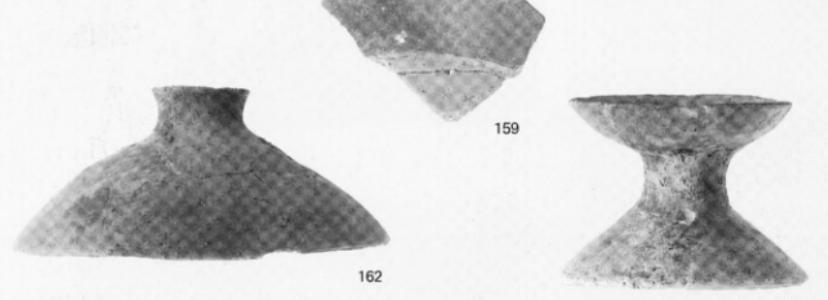
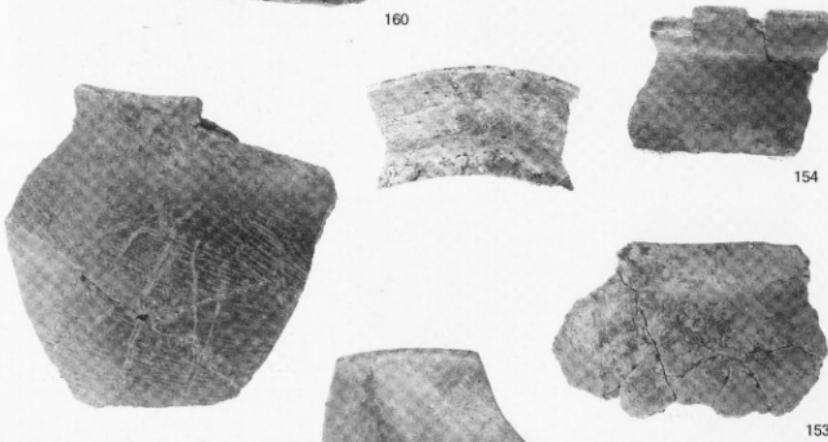
図版16 神成遺跡の遺物(1) (S=1:2)



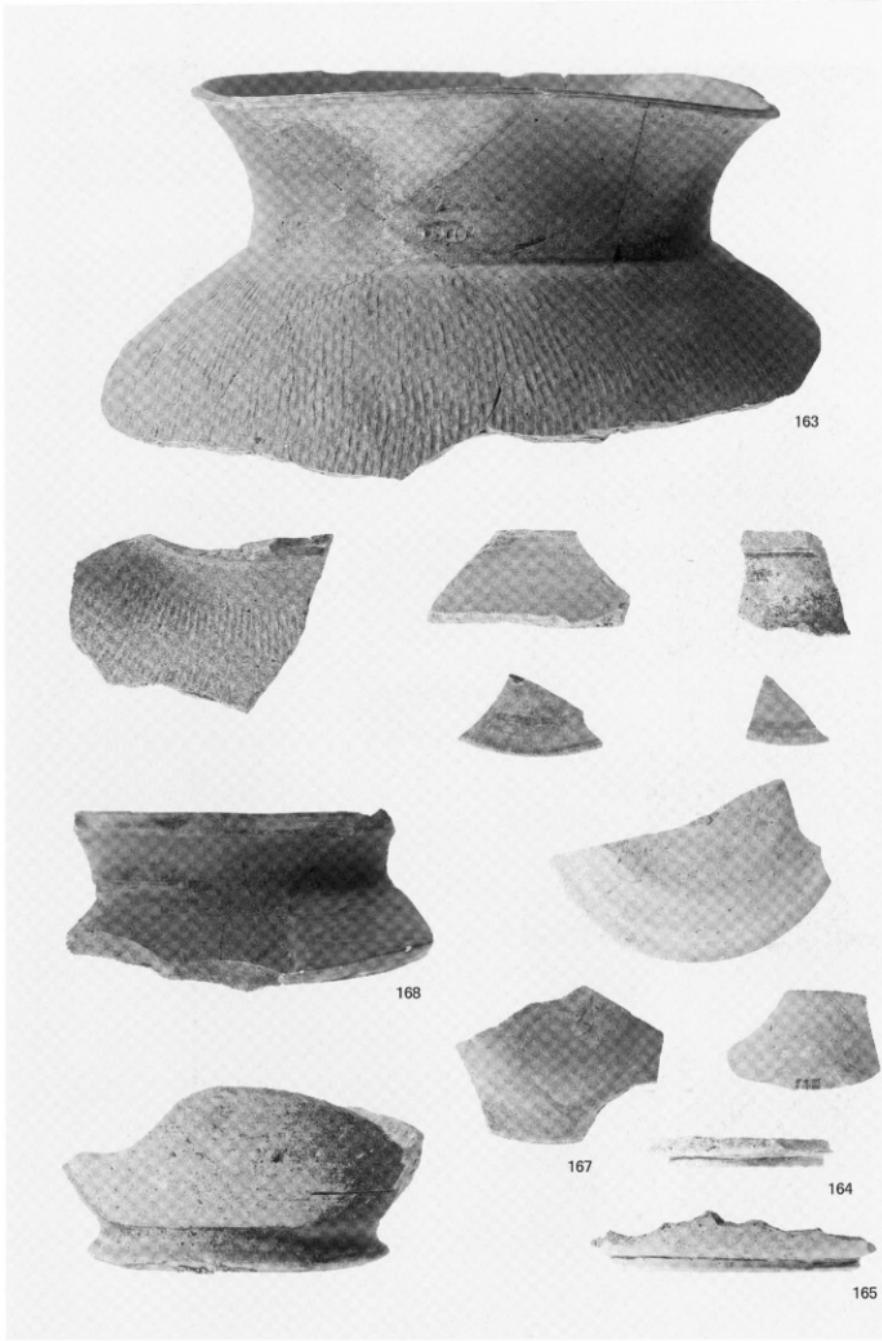
図版17 神成遺跡の遺物(2) (S = 1:2)



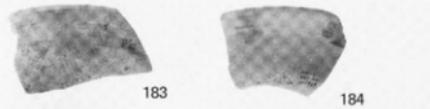
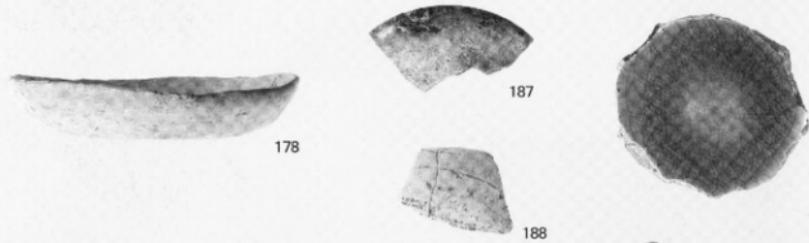
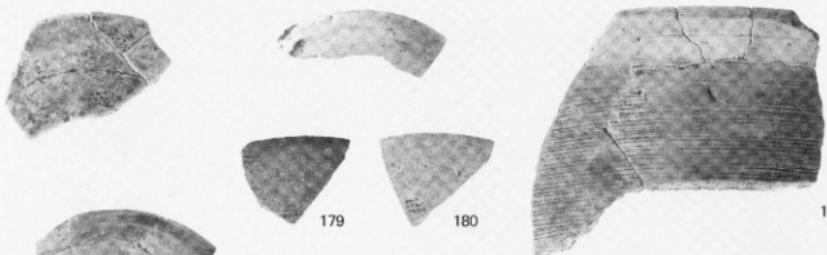
160



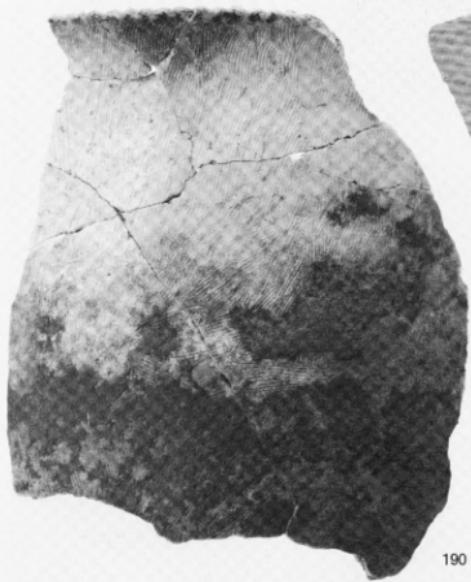
図版18 神成遺跡の遺物(3) (S=1:2)



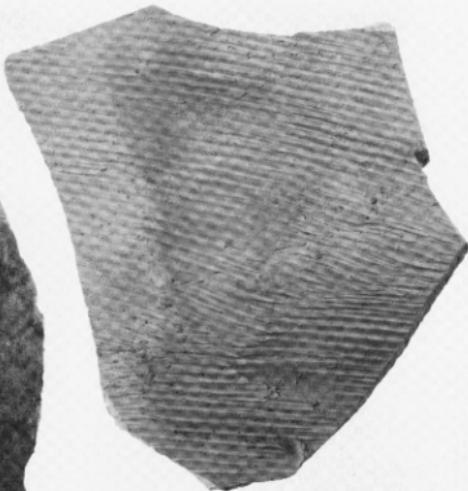
図版19 神成遺跡の遺物(4) (S=1:2)



図版20 神成造跡の遺物(5) (S=1:2)



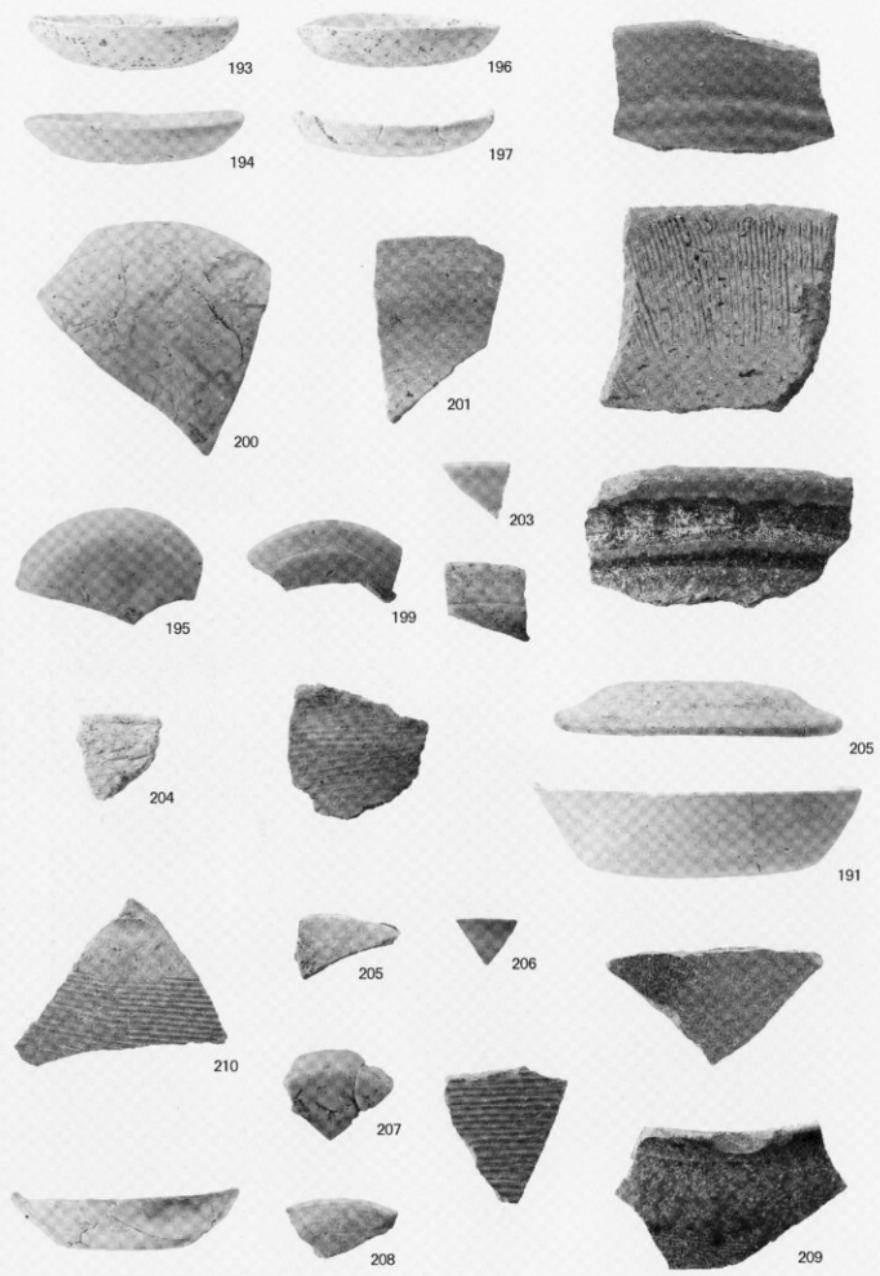
190



202



図版21 梅原胡摩堂遺跡の遺物[1] (S = 1:2)



図版22 梅原胡摩堂遺跡の遺物(2)・宗守遺跡の遺物 (S=1:2)
(191~203)
(204~210)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくみつまち けんえいほじょうせいびじょう (にないいくせいがた) にかかるまいぞうぶんかざいほうぞううちしくつちょうさほうこくしょ きたやまだほくぶちく					
書名	富山県福光町 県営は場整備事業（担い手育成型）に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書－北山田北部地区－					
編著者名	佐藤聖子 片田亞紀 西村倫子					
編集期間	福光町教育委員会					
所在地	〒939 1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111					
発行年月日	西暦2003年3月20日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 度分 秒	東経 度分 秒	調査原因
ありふ在房	富山県 福光町在房	16421	274	36度33分 31秒	136度54分 45秒	
ひさと久戸	富山県 福光町久戸	16421	176	36度33分 42秒	136度54分 45秒	
ひさとに久戸	富山県 福光町久戸	16421	276	36度33分 42秒	136度54分 45秒	
ひさとひがし 久戸東	富山県 福光町神成	16421	186	36度33分 40秒	136度54分 55秒	県営は場整備事業 (担い手育成型) 北山田北部地区
かんなり 神成		16421	275	36度33分 35秒	136度54分 45秒	
うめはらごまどう 梅原胡摩堂	富山県 福光町宗守	16421	180	36度33分 30秒	136度54分 30秒	
むねもり 宗守		16421	185	36度33分 25秒	136度54分 35秒	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		
在房	散布地・集落	縄文、奈良平安、中世、近世	掘立柱建物、土坑溝、ピット	绳文土器、須恵器、土師器 中世土師器、珠洲 白磁、青磁		
久戸	散布地・集落	縄文、奈良平安、中世、近世	溝、ピット	須恵器、珠洲、青磁、土師質土器		
久戸II	散布地・集落	縄文、弥生、古墳、奈良平安、中世、近世	竪穴住居、上坑、溝、ピット	須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、木製品		
久戸東	散布地	縄文、奈良平安、中世	土坑、溝、ピット	なし		
神成	散布地・集落	縄文、古墳、奈良平安、中世、近世	土坑、溝、ピット	绳文土器、古墳土師器、須恵器、中世土師器		
梅原胡摩堂	散布地・集落	縄文、弥生、古墳、古代、中世、近世	土坑、溝、ピット	弥生土器、須恵器、中世土師器		
宗守	散布地	縄文、中世	掘立柱建物、土坑	绳文土器、須恵器、中世土師器		

富山県福光町 県営は場整備事業（担い手育成型）に係る
埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書－北山田北部地区－

平成15年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 南ナカダ印刷

